資　料　編

＜　目　次　＞

資料１　審査結果一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

所得制限等の状況一覧（参考）　・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

資料２　審査結果表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１

資料３　補助金チェックシート（担当課審査表）様式　・・・・・・・・　８３

資料４　補助金チェックシート（委員会審査表）様式　・・・・・・・・　８５

資料５　尾張旭市補助金等審査委員会条例　・・・・・・・・・・・・・　８６

資料６　委員会開催状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８７

資料７　委員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８９

審　査　結　果　一　覧

【合計点順】

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
21	県外妊婦・乳児健診助成金	159		○					妊婦の健康保持、安心して出産できる環境づくりは非常に重要な政策である。制度の初年度であるため今後の動向を見守る必要があるが、実績によっては拡大をする方向で検討されたい。	・妊婦の健康保持、安心して出産できる環境づくりは重要な国家的政策である。 ・制度が初年度であるので今後の動向を見ていきたいが、平成２０年度の実績を踏まえて、健診回数の充実、補助金の充実などの検討が必要である。 ・妊婦健診の助成回数は無制限にしてもいいのではないか。
23	不妊治療費等補助金	154		○					少子化対策、子どもが欲しいという願いを叶えるために有効な制度である。今後の動向を見守りつつ、拡大をする方向で検討されたい。	・少子化対策にも有効であるし、子どもが欲しいという願いをかなえるためにも拡大が必要である。 ・医療としても進歩が期待されている分野である。拡大を視野に考えてはどうか。 ・補助目的から考えると、補助対象の期間を延長したり、補助限度額を増額することも必要ではないか。 ・他市町村同様の所得制限はしてもいいのではないか。
25	民間木造住宅耐震改修費補助金	150		○					総合的な防災政策の中の具体的な対策として評価できるが、市民の防災意識がまだ低いため、当補助金の趣旨、目的の広報活動と併せ、他の防災政策と連動した市民の防災意識の向上と啓発を図る制度を構築する必要がある。	・市民の安全を確保するため、昭和５６年以降に建てられた建物も対象にするとよいのではないか。 ・建造物に対する知識をもっと各自も持たなくてはいけないが、自力では難しい。 ・阪神・淡路大震災以降、防災に対する国民の意識はかなり高まったと思うが、いつ起こるかわからないなら直さなくていいという人もいる。企業の防災意識も低い。防災意識をいかに向上させるかが重要である。 ・市民の命、財産を守ることが市の行政の役割でもある。都市防災部のような部を作ってもいいと思う。
27	生垣設置奨励助成金	138		○					生垣化は、防災上重要である。広報にも努め、普及を促進されたい。	・適切に剪定されていない生垣があるので、維持管理の再徹底をすべきである。 ・選ぶ樹木の種類によって伸びる速度が違うので、植えるときに気をつければよいと思う。

審　査　結　果　一　覧

【合計点順】

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										・行政として他の部署との調整をしてはどうか。 ・公園都市施策の一環として、生垣化の意義の一層の周知に努められたい。 ・ブロック塀の生垣化は、防災対策上も重要な施策である。ブロック塀よりも生垣の方が防災面で優れているという視点での広報にも努めて市民の理解を求め、普及を促進してほしい。
29	浄化槽雨水貯留施設転用補助金	138		○					制度趣旨、目的は望ましいので、申請件数の状況によっては予算増額も検討すべきである。	・環境対策面から見ても制度としてはいいが、実績がないから評価が難しい。 ・下水道普及対策として理解できる。実績の拡大を図るため、対象世帯に個別にＰＲ活動をすべきである。 ・将来的には雨水等自然水の利用に対する補助制度も検討し、雨水総合対策との連携を図られたい。
31	自転車通学安全補助金	135		○					交通安全のための補助であるのか、自転車通学者がヘルメットを購入しなければならないことに対する経済負担の軽減のための補助であるのか、また、健康推進の視点と自転車通学をどう考えるかなど、市の政策、姿勢を明確にする必要がある。	・金額に対する政策的説明が必要である。交通安全対策であるなら無償給付でもよい。 ・交通安全と防災上の観点から、現在の通学者に対する補助だけでなく、小中学生に対する総合的な施策を検討してはどうか。 ・子どもの健康のため自転車通学自体を取り止めた方がいいのではないか。 ・歩いて通学することも健康のためにはよいが、朝の通学時はともかく、帰宅時に部活動への参加が難しくなるなどの問題が出るかもしれない。
33	私立高校等授業料補助金	133		○					教育に対する市の政策、姿勢により方向性が異なる場合があるので、教育に対する市の政策、姿勢を整理し、明確にされたい。	・所得格差により子どもの能力を伸ばすことができないのは問題であり、その格差を是正するために補助金を交付することは行政の重要な役割である。市町村によって額が違うのは、首長の教育に対する理念の違いである。 ・将来を担う青少年の教育充

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										実のため、補助金額の増額を検討すべきである。 ・保護者の経済的負担軽減のためにも継続すべきである。
35	成年後見人等報酬費用助成金	132		○					現在の予算額では妥当性を欠くため、見直しが必要である。	・要綱が抽象的過ぎる。１名に対する補助金の限度額を明確にすべきである。 ・平成２０年度の予算額では妥当性を欠くため、要綱とともに検討した方がいい。 ・金額を常識の範囲内で拡大し、本制度の普及を図られたい。
37	私立幼稚園就園奨励費補助金	130		○					拡大すべきという意見と縮小すべきという意見もあった。幼児教育に対する市の政策、姿勢により方向性が異なるものであるので、幼児教育に対する市の政策、姿勢を整理し、明確にされたい。	・所得格差により子どもの能力を伸ばすことができないのは問題であり、その格差を是正するために補助金を交付することは行政の重要な役割である。市町村によって額が違うのは、首長の教育に対する理念の違いである。 ・子どもは地域で育てるものであり、公金を投入することに十分な合理性がある。 ・ベビーブームの時代と少子化の現在で同じ金額というのはいかがなものか。少子化の理由として、教育費、養育費が高いという統計もある。対象者も少なくなってきていることだし、子どもの健やかな成長と幼児教育の一層の充実の観点から、補助金の増額を検討してもいいのではないか。 ・私立幼稚園の就園率が現状程度あるなら、公金を使用すべきではないと思う。
39	尾張あさひ苑利用者助成金	128		○					健康増進につながるため、利用者の拡大を図られたい。	・体験利用制度などの対策を考えてはどうか。 ・助成金額を引き上げて、使用率を高めてほしい。 ・健康福祉の向上に一層の効果がある方向で拡大したい。 ・制度をもっと市民に周知して、利用者の拡大を図るべきである。
41	生ごみ処理機購入補助金	127		○					ごみ減量に対する補助金の整理統	・環境問題が重要な社会情勢の下、市民に対する啓発の

審　査　結　果　一　覧

【合計点順】

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
									合など、補助金制度の総合的な見直しが必要である。	手段としてもしばらくは継続としたい。 ・生ごみを減らし、収集されるごみが縮小されると思う。 ・堆肥化容器購入補助金と発酵用密閉容器購入補助金を廃止して、この補助金のみとしてもよいのではないか。 ・生ごみ関係の３つの補助金を統一して、１つにしてはどうか。 ・今までの生ごみ対策に対する補助金の実績も踏まえて、市として包括的に検討するべきである。 ・最新の処理機も検討して、補助金のあり方を再構築してもらいたい。
43	合併処理浄化槽設置費補助金	125		○					対象者は限られているが、下水道未普及地域に住んでいる世帯のためのものである。下水道が普及するまでは継続する必要がある。	・これだけ件数が少ないと、補助金を出す意味があまりないのではないか。公平性、平等性という点でどうか。 ・現状の補助対象世帯数では、水質汚濁防止にどの程度の効果があるのか疑問である。 ・下水道が普及していない地域に住んでいる世帯のためのものであり、下水道が普及していれば必要のない補助金である。 ・潜在的な需要がどれだけあるかわからないが、需要があるうちは継続としたい。 ・公平性を確保するため、申請の締切日を決めて抽選にした方がよい。
45	緊急連絡用シルバーホン使用料補助金	123		○					個人に対して現金を交付するのではなく、別の方法を検討されたい。	・携帯電話も普及してきており、安心料としてなら他の方法もあるのではないか。 ・本当の緊急時には使用が不可能であると思われるので、他の対策をしてはどうか。 ・心臓病等の持病を持つ者に限定してもよいのではないか。 ・費用対効果を把握するた

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										め、通報先で、件数、内容、処理状況についての統計を作成する必要がある。
47	勤労者尾張あさひ苑利用助成金	122		○					健康増進につながるため、利用者の拡大を図られたい。	・利用者人数との関係はあるが、助成金は市内在住者に限定してはどうか。 ・助成金の交付方法を検討し、より一層の普及を図りたい。 ・商工会を通じて広報を充実し、利用者の増加に努められたい。 ・市民の健康福祉に貢献する補助金と認められる。指定管理者に委託料を払うなら、補助金額を増額し、より多くの人に利用されるようにしてはどうか。
49	障害者（児）タクシー基本料金助成金	122		○					障害者福祉の一環として重要な施策である。	・障害者福祉の充実のため対象者の拡大を検討した方がよい。
51	商工業振興資金等信用保証料助成金	121		○					中小企業の経営安定のため、制度目的の周知に努められたい。	・特定企業に限られているのであれば、見直す必要がある。 ・中小企業の経営安定に資するものであるため、さらに制度目的の周知に努められたい。 ・社会性のある施策として継続すべきである。
53	介護支援事業費助成金	121		○					要介護者等の住宅改修に必要である。	・自己負担すべきではないか。 ・市民福祉の向上のためにも継続したい。 ・将来的には交付額の増額を検討すべきである。
55	保存樹等保全助成金	117		○					賛否両論あった。保存樹の保全に対する市の意向がどのような方向にあるのかを明確にする必要がある。	・特定の樹木は決めるべきであるが、特定の市民に公金を使用すべきではない。 ・公園等の公的な場所にある樹木は残すべきであると思うが、個人所有の樹木は各自で保存すべきではないか。 ・保存樹の維持管理面から助成額を少し拡大し、所有者の管理意欲を促す方が制度目的に合致すると思う。 ・尾張旭市は公園都市をスローガンにしている。市全体を緑豊かな市にしたいとい

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										うのは大事な視点であり、樹齢何百年という大きな樹木を地域社会のシンボルとして大事にするというのもいいことであると思う。 ・保存樹の保全は都市景観の上からも長期的視点で評価したい。周辺住民の理解と協力を得ることも必要である。
57	高齢者タクシー基本料金助成金	115		○					高齢者の外出支援は重要な問題であるが、健康増進の観点からは巡回バスの積極的な利用も効果的であると思われるため、巡回バスの利用促進対策と一体で制度を検討されたい。	・健康都市を目標とする市の方針からはこの補助金の拡大は疑問である。交付要件の再検討が必要ではないか。 ・市営バスに敬老パスを導入するなど市営バスの利用者促進策の検討も必要である。 ・補助目的を高めるためには、３６枚の交付枚数は少ないのではないか。例えば、高齢者を８０歳台、９０歳台に分け、９０歳台は交付枚数の拡大を図るなどの見直してもよいのではないか。
59	家族介護慰労事業補助金	112				○			補助金の趣旨、目的としては理解できるが、対象世帯が少ないため、この制度としては廃止して他の福祉施策で対処する可能性を検討されたい。	・施策としての理念は理解できるが、現実性は乏しい。 ・対象世帯が少ないため、社会福祉協議会が実施するよう検討してはどうか。 ・慰労金としてではなく、他の方法があるのではないか。
61	排水設備等改造費補助金	108				○			補助の趣旨としては必要であるが、現行の制度では活用ができないと思われる。国の制度を活用するなど制度の抜本的な見直しを検討されたい。	・対象者が少ないので、意見がまとめられない。 ・あっても使えないような制度であれば、やめることを考えた方がいい。 ・これまで活用されていない経緯、対象者が１名であるという現状から見て、制度の抜本的な見直しが必要である。 ・市が全額支払った場合、市に２分の１を補助するという国の制度の活用を検討されたい。

審　査　結　果　一　覧

【合計点順】

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
63	生ごみ発酵用密閉容器購入補助金	107				○			ごみ減量の観点から補助金の継続の必要があると判断する場合は、生ごみ処理機購入補助金との統合等を検討する必要がある。	・交付実績は近年減少の傾向にあるが、もうしばらくは継続してはどうか。 ・自分で使用したことがあるが、できあがった堆肥を使い切ることができない。直接肥料として使うには強すぎるし、匂いが強いのも問題である。 ・この制度が今後生ごみの削減化に繋がるのかが疑問である。 ・当初の補助目的は既に達成している。
65	犬・猫避妊等手術補助金	107				○			継続しようとする場合には、犬猫問題対策に対する市の施策を抜本的に見直し、施策を再構築する必要がある。	・避妊・去勢手術等は各家庭の責任において行うべきであり、市としては野良犬・猫に対してのみ補助するべきである。 ・もう少し行政が施策を整理すべきではないか。補助金の問題もあるが、市民の悩みは犬の鳴き声、飼い主のマナー、猫のフン害等であり、これらの抜本的な対策が必要である。縮減というよりは廃止であり、継続するなら制度を整えた上で継続するべきである。 ・市の政策、施策の目的を明確にし、補助金の効果等を全体として見直すことが必要である。 ・犬猫の避妊や去勢だけで片付く問題ではない。市の政策との整合性があまりないと判断するのであれば、補助金を続けていくということに問題がある。
67	中小企業大学校等研修費補助金	107		○					補助金の交付目的は理解できるが、担当課の制度運用が不適切であるため、制度の見直しが必要である。	・人材育成を目的とする一般的意義はあるが、実際の運用はその目的に適合していない。一旦廃止して、制度を再構築することが望ましい。 ・商工会で制度として検討されてはどうか。 ・２０人以下の企業では、研修を受講させるのは大変であると思うが、受講する環境づくりをして制度運用を

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										図ってほしい。 ・補助金の趣旨、目的について広報を充実させ、人材育成の必要性を広く市民に理解してもらう工夫と努力が必要である。
69	障害者住宅整備資金借受者利子補給補助金	106				○			現在の対象者をもって廃止が適当である。障害者福祉の重要性は委員全員が認めるところであるが、利子補給を行う意義は、現在の低金利の下では失われている。この補助金の財源は、他の障害者福祉施策のために活用されたい。	・障害者扶助のために継続をすべきでないか。 ・近年の低金利の情勢では、利子補給を行う意義は薄れている。他の障害者施策に転換すべきである。 ・現在の対象者の返済が終了する時点で廃止すべきである。
71	健康診断書作成補助金（長寿課）	105				○			高齢者福祉は重要な施策であるが、総合的な施策に切り替えるべきである。	・高齢者福祉は重要な施策であるが、健康診断書の作成というような個別の施策ではなく、総合的な施策に切り替えて欲しい。 ・公益性が高い事業とは思えない。 ・別の制度への変更が必要ではないか。
73	健康診断書作成補助金（福祉課）	104				○			障害者福祉は重要な施策であるが、総合的な施策に切り替えるべきである。	・障害者福祉施策全体を再点検し、この補助金をはじめ、障害者福祉に関する補助金の効果を検証する必要があるのではないか。 ・費用対効果を考えると、廃止もやむを得ない。
75	生ごみ堆肥化容器購入補助金	101				○			ごみ減量の観点から補助金の継続の必要があると判断する場合は、生ごみ処理機購入補助金との統合等を検討する必要がある。	・補助件数が少ないため、補助金の効果が低いと思う。 ・交付目的は、過去の実績から見ると消滅している。もっと根本的なごみ対策の施策を検討するべきである。 ・補助金額、普及率から見て、補助金の役割は終了したと考えられる。
77	高齢者住宅整備資金借受者利子補給補助金	101				○			現在の対象者をもって廃止が適当である。	・住宅事情、金融事情等を考慮すると、利子補給の必要性は希薄している。 ・金利負担を軽減するため、借り換えを勧めるべきである。

審　査　結　果　一　覧

【合計点順】

結果表ページ	補助金名	合計点	拡大	継続	縮減	廃止	終期	切替	附帯意見	その他特記事項
										・他の高齢者福祉施策に転換すべきである。
79	中小企業退職金共済制度補助金	83				○			加入者が極端に限られている。抜本的な見直しが必要である。	・他に代替手段がないとか、市がやらなければならないものでなければ、説明責任が果たせない。 ・商工会が実施している特退共も加入者数が減少しているので、期限をもって打ち切ってはどうか。 ・猶予期間として３年据え置いて、平成２３年度に廃止してはどうか。 ・中退共と特退共の制度を一本化するなど、抜本的な見直しが必要である。
81	離職者支援資金借受者利子補給補助金	71				○			対象者がいないため、廃止が適当である。	・制度運用がされていないため、補助の打ち切りをしてはどうか。 ・一般的には知られていない制度であるため、他の補助金へ移行するなど、制度の再検討をするべきである。
計（31 種類）			0	20	0	11	0	0		

所得制限等の状況一覧（参考）

【審査順】

結果表ページ	補助金名	担当課	類型	所得制限の設定	不正受給防止の措置	納税状況の確認
65	犬・猫避妊等手術補助金	環境課	特定目的型		○	
43	合併処理浄化槽設置費補助金	環境課	特定目的型		○	
75	生ごみ堆肥化容器購入補助金	環境課	特定目的型		○	
63	生ごみ発酵用密閉容器購入補助金	環境課	特定目的型		○	
41	生ごみ処理機購入補助金	環境課	特定目的型		○	
25	民間木造住宅耐震改修費補助金	都市計画課	特定目的型		○	
55	保存樹等保全助成金	都市整備課	特定目的型		○	
27	生垣設置奨励助成金	都市整備課	特定目的型		○	
61	排水設備等改造費補助金	下水道課	格差是正型	○	○	
29	浄化槽雨水貯留施設転用補助金	下水道課	特定目的型		○	○
79	中小企業退職金共済制度補助金	産業課	特定目的型		○	○
81	離職者支援資金借受者利子補給補助金	産業課	格差是正型		○	
51	商工業振興資金等信用保証料助成金	産業課	特定目的型		○	○
67	中小企業大学校等研修費補助金	産業課	特定目的型		○	○
47	勤労者尾張あさひ苑利用助成金	産業課	特定目的型		○	
39	尾張あさひ苑利用者助成金	福祉課	特定目的型		○	
37	私立幼稚園就園奨励費補助金	教育行政課	格差是正型	○	○	○
33	私立高校等授業料補助金	教育行政課	格差是正型	○	○	○
31	自転車通学安全補助金	学校教育課	特定目的型		○	
21	県外妊婦・乳児健診助成金	健康課	格差是正型		○	
23	不妊治療費等補助金	健康課	特定目的型		○	
69	障害者住宅整備資金借受者利子補給補助金	福祉課	格差是正型		○	
77	高齢者住宅整備資金借受者利子補給補助金	長寿課	格差是正型		○	
73	健康診断書作成補助金（福祉課）	福祉課	格差是正型		○	
71	健康診断書作成補助金（長寿課）	長寿課	格差是正型	○	○	○
49	障害者（児）タクシー基本料金助成金	福祉課	格差是正型		○	
57	高齢者タクシー基本料金助成金	長寿課	特定目的型		○	
45	緊急連絡用シルバーホン使用料補助金	長寿課	特定目的型		○	
53	介護支援事業費助成金	長寿課	特定目的型		○	
59	家族介護慰労事業補助金	長寿課	格差是正型	○	○	
35	成年後見人等報酬費用助成金	長寿課	格差是正型	○	○	
計				6	31	7

整理番号	22	補助金名	県外妊婦・乳児健診助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	3	6		
委員Ｂ	6	2	1	
委員Ｃ	3	5	1	
委員Ｄ	6	3		
委員Ｅ	8	1		
計	26	17	2	
①福祉向上効果が高い	＋＋＋＋	＋		
②市民の理解を得られる	＋＋＋＋	＋		
③補助目的の希薄はない	＋＋＋＋	＋		
④政策・施策との整合性	＋＋	＋＋＋		
⑤代替手段はない	＋＋＋	＋＋		
⑥要件は適切	＋＋＋	＋	－	
⑦費用対効果は適切	＋＋	＋＋＋		
⑧不正受給防止の措置	＋＋＋	＋＋		
⑨補助率は適正	＋	＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		妊婦の健康保持、安心して出産できる環境づくりは非常に重要な政策である。制度の初年度であるため今後の動向を見守る必要があるが、実績によっては拡大をする方向で検討されたい。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

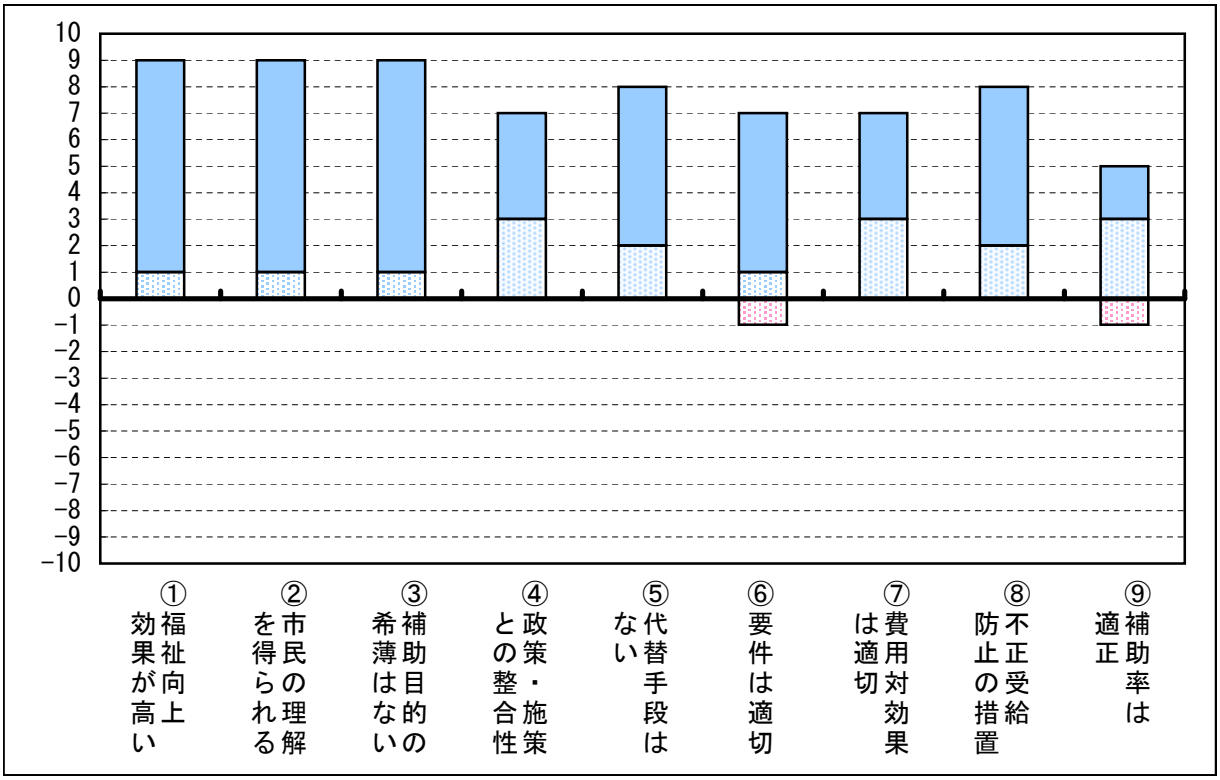
・妊婦の健康保持、安心して出産できる環境づくりは重要な国家的政策である。
・制度が初年度であるので今後の動向を見ていきたいが、平成２０年度の実績を踏まえて、健診回数の充実、補助金の充実などの検討が必要である。
・妊婦健診の助成回数は無制限にしてもいいのではないか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	159点 ／ 180点	平均	31.8点 ／ 36点

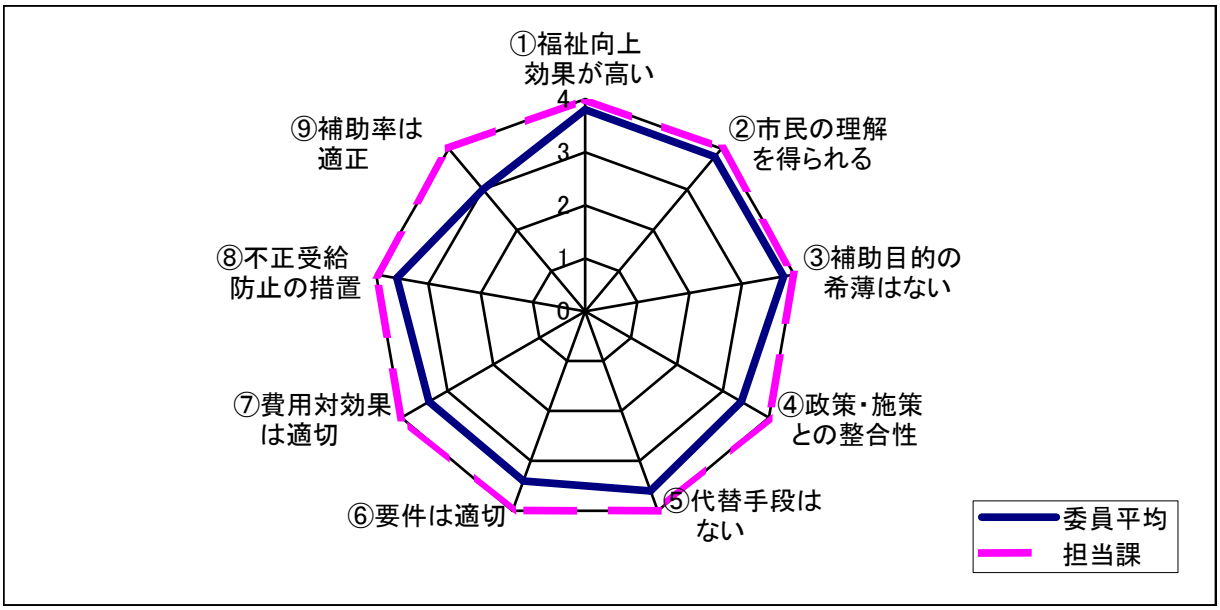
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	23	補助金名	不妊治療費等補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	4	4	1	
委員Ｂ	5	1	3	
委員Ｃ	3	5	1	
委員Ｄ	6	3		
委員Ｅ	6	3		
計	24	16	5	
①福祉向上効果が高い	＋＋＋＋＋			
②市民の理解を得られる	＋＋＋＋＋			
③補助目的の希薄はない	＋＋＋＋＋			
④政策・施策との整合性	＋＋＋	＋＋		
⑤代替手段はない	＋	＋＋＋＋		
⑥要件は適切	＋＋	＋	－－	
⑦費用対効果は適切	＋	＋＋＋	－	
⑧不正受給防止の措置	＋＋	＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋＋	－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋＋		少子化対策、子どもが欲しいという願いを叶えるために有効な制度である。今後の動向を見守りつつ、拡大をする方向で検討されたい。
継続	＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

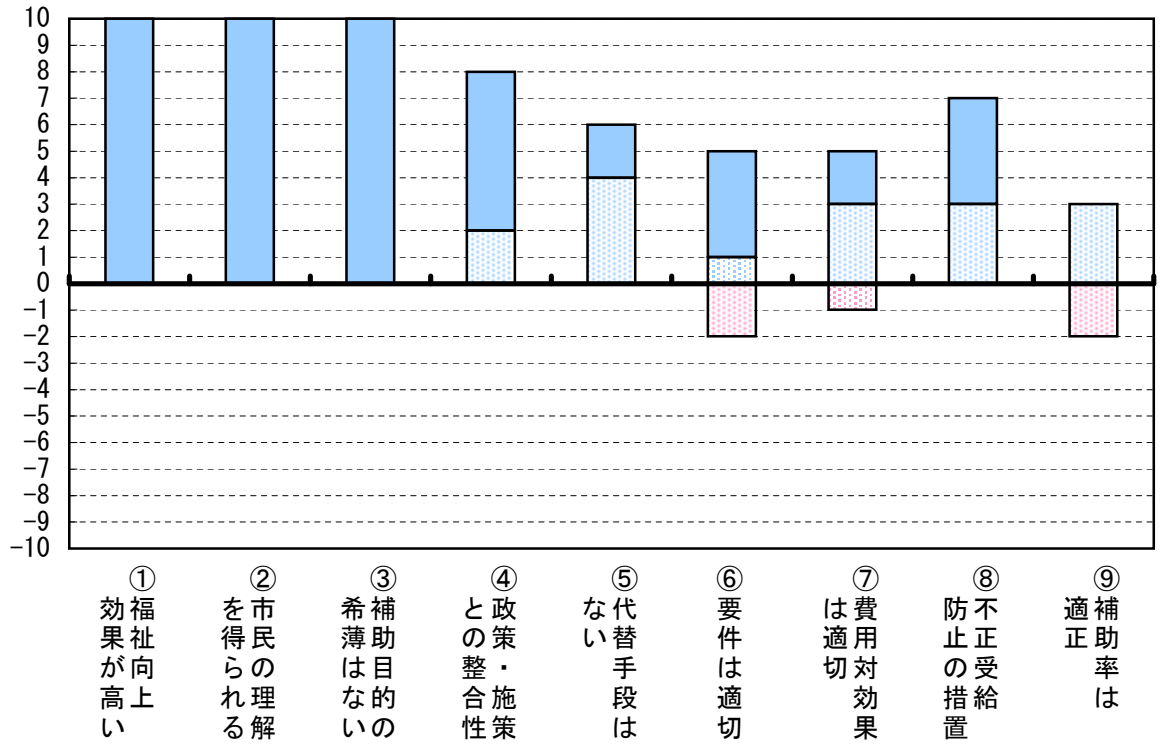
・少子化対策にも有効であるし、子どもが欲しいという願いをかなえるためにも拡大が必要である。
・医療としても進歩が期待されている分野である。拡大を視野に考えてはどうか。
・補助目的から考えると、補助対象の期間を延長したり、補助限度額を増額することも必要ではないか。
・他市町村同様の所得制限はしてもいいのではないか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	154点 ／ 180点	平均	30.8点 ／ 36点

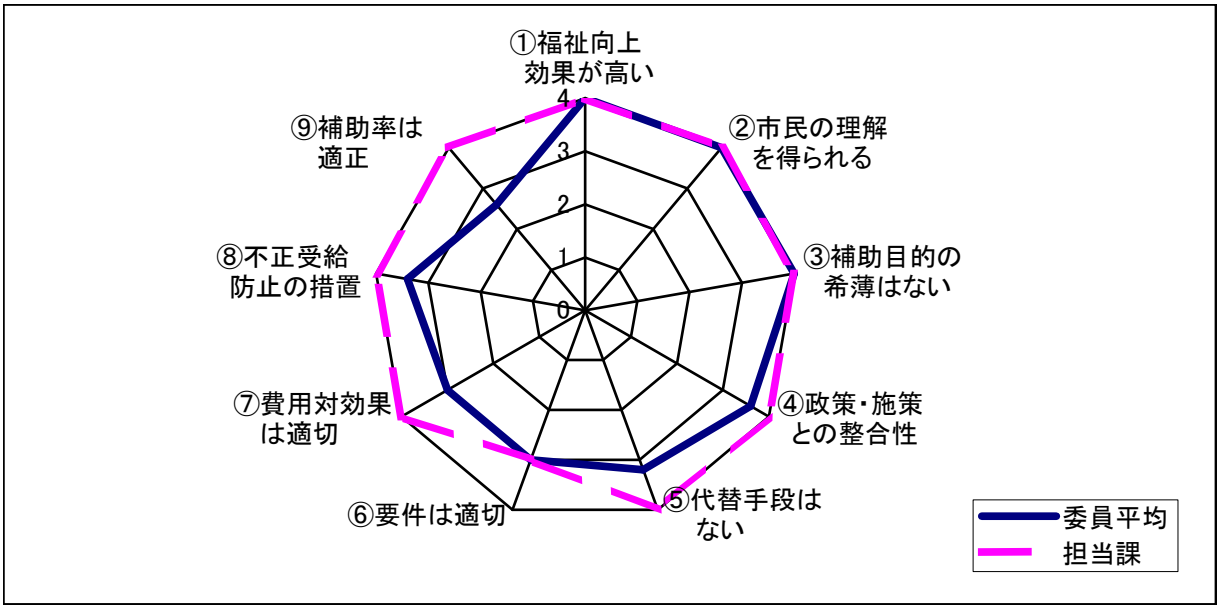
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	24	補助金名	民間木造住宅耐震改修費補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	6	2	1	
委員Ｂ	4	4	1	
委員Ｃ	5	2	2	
委員Ｄ	6	1	2	
委員Ｅ	2	5	2	
計	23	14	8	
①福祉向上効果が高い	＋＋＋＋	＋		
②市民の理解を得られる	＋＋＋＋	＋		
③補助目的の希薄はない	＋＋＋＋＋			
④政策・施策との整合性	＋＋＋＋	＋		
⑤代替手段はない	＋	＋＋	－－	
⑥要件は適切	＋	＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切	＋＋	＋＋	－	
⑧不正受給防止の措置	＋＋	＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋	－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			総合的な防災政策の中の具体的な対策として評価できるが、市民の防災意識がまだ低いため、当補助金の趣旨、目的の広報活動と併せ、他の防災政策と連動した市民の防災意識の向上と啓発を図る制度を構築する必要がある。
継続	＋＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

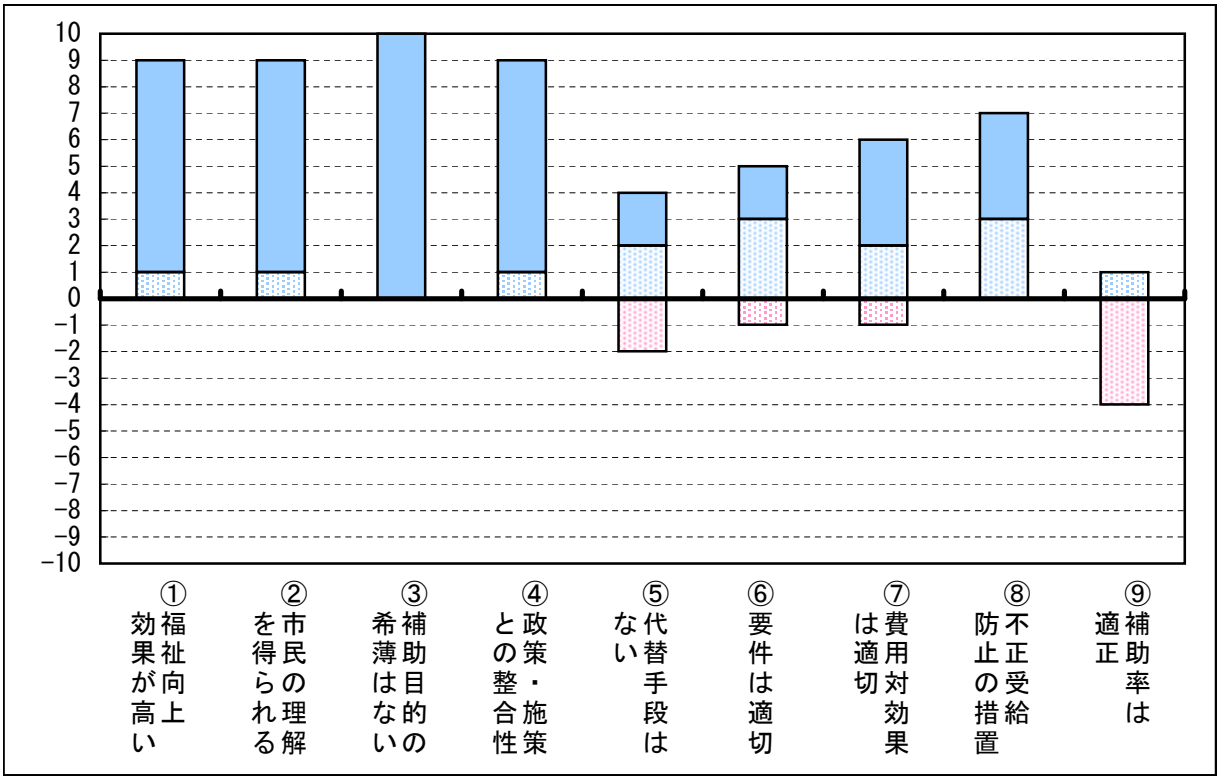
・市民の安全を確保するため、昭和５６年以降に建てられた建物も対象にするとよいのではないか。
・建造物に対する知識をもっと各自も持たなくてはいけないが、自力では難しい。
・阪神・淡路大震災以降、防災に対する国民の意識はかなり高まったと思うが、いつ起こるかわからないなら直さなくていいという人もいる。企業の防災意識も低い。防災意識をいかに向上させるかが重要である。
・市民の命、財産を守ることが市の行政の役割でもある。都市防災部のような部を作ってもいいと思う。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	150点 ／ 180点	平均	30点 ／ 36点

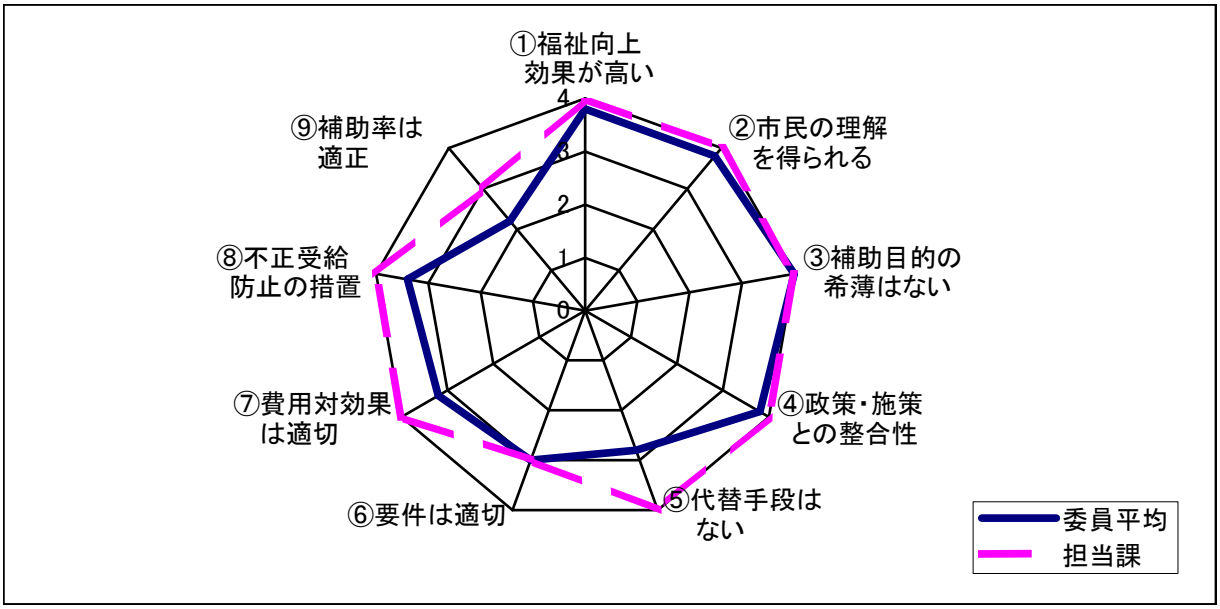
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	26	補助金名	生垣設置奨励助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	2	7		
委員Ｂ		6	3	
委員Ｃ		7	2	
委員Ｄ	8	1		
委員Ｅ		7	2	
計	10	28	7	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋＋＋		
②市民の理解を得られる	＋＋	＋＋	－	
③補助目的の希薄はない	＋	＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性	＋	＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切	＋	＋＋＋＋		
⑦費用対効果は適切	＋	＋＋＋	－	
⑧不正受給防止の措置	＋	＋＋＋＋		
⑨補助率は適正	＋	＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			生垣化は、防災上重要である。広報にも努め、普及を促進されたい。
継続	＋＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

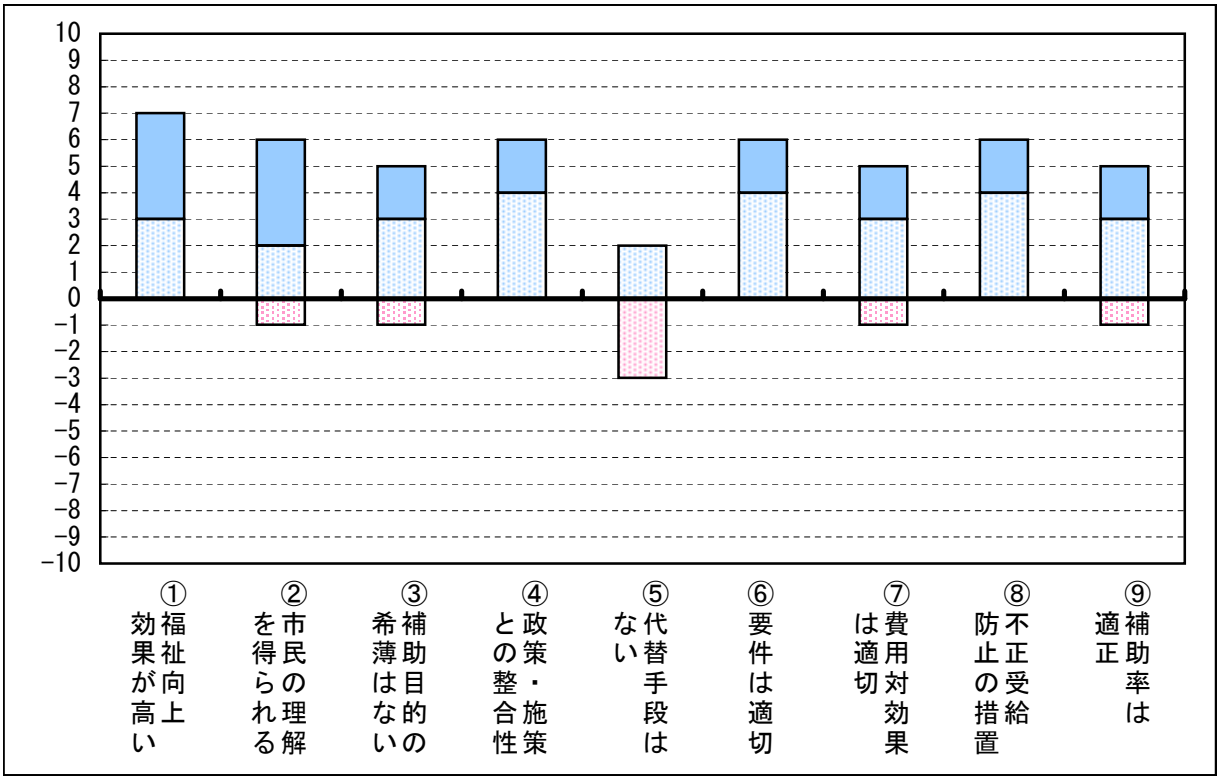
・適切に剪定されていない生垣があるので、維持管理の再徹底をすべきである。
・選ぶ樹木の種類によって伸びる速度が違うので、植えるときに気をつければよいと思う。
・行政として他の部署との調整をしてはどうか。
・公園都市施策の一環として、生垣化の意義の一層の周知に努められたい。
・ブロック塀の生垣化は、防災対策上も重要な施策である。ブロック塀よりも生垣の方が防災面で優れているという視点での広報にも努めて市民の理解を求め、普及を促進してほしい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	138点 ／ 180点	平均	27.6点 ／ 36点

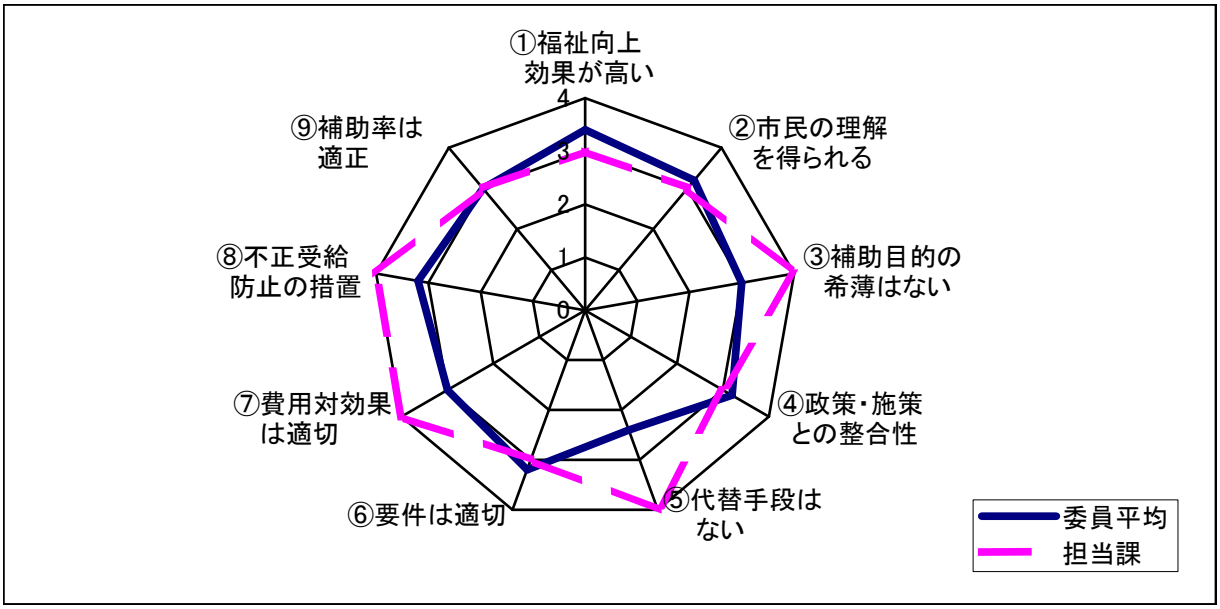
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	28	補助金名	浄化槽雨水貯留施設転用補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	5	3	
委員Ｂ		9		
委員Ｃ		8	1	
委員Ｄ	7	2		
委員Ｅ	1	6	2	
計	9	30	6	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋＋＋		
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋＋		
③補助目的の希薄はない	＋	＋＋＋＋		
④政策・施策との整合性		＋＋＋	－－	
⑤代替手段はない		＋＋＋＋＋		
⑥要件は適切	＋	＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切	＋	＋＋＋	－	
⑧不正受給防止の措置	＋＋	＋＋＋		
⑨補助率は適正	＋	＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		制度趣旨、目的は望ましいので、申請件数の状況によっては予算増額も検討すべきである。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

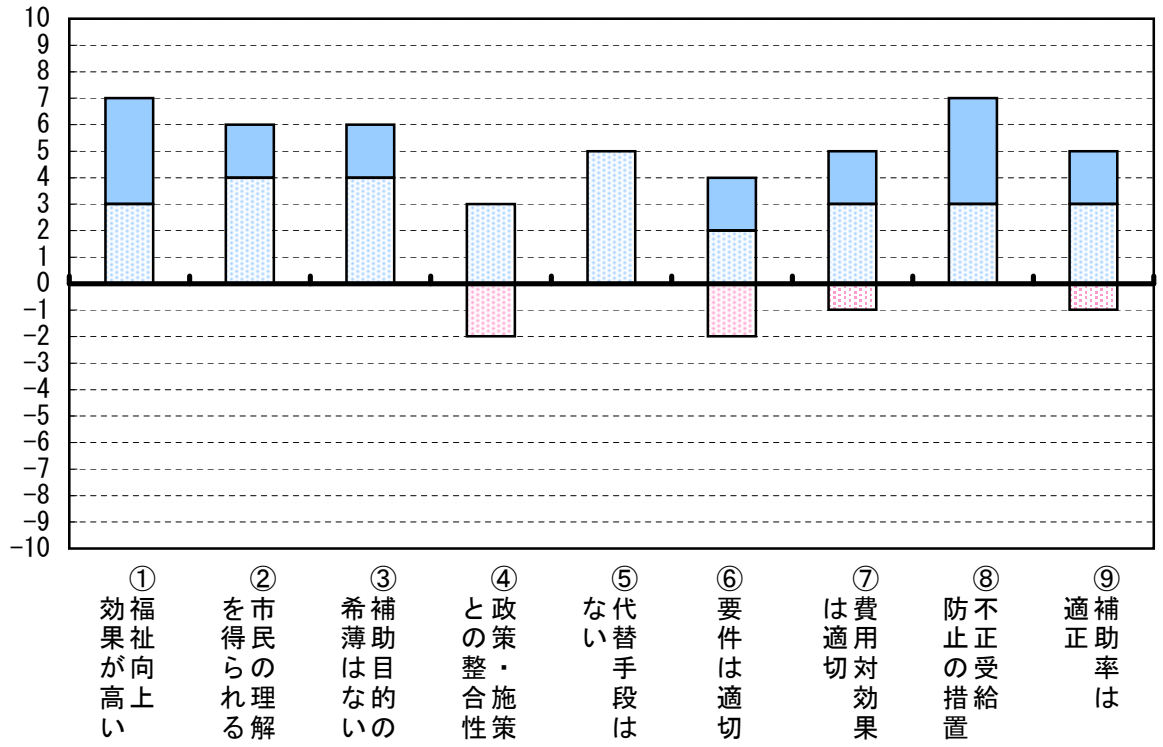
・環境対策面から見ても制度としてはいいが、実績がないから評価が難しい。
・下水道普及対策として理解できる。実績の拡大を図るため、対象世帯に個別にＰＲ活動をすべきである。
・将来的には雨水等自然水の利用に対する補助制度も検討し、雨水総合対策との連携を図られたい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	138点 ／ 180点	平均	27.6点 ／ 36点

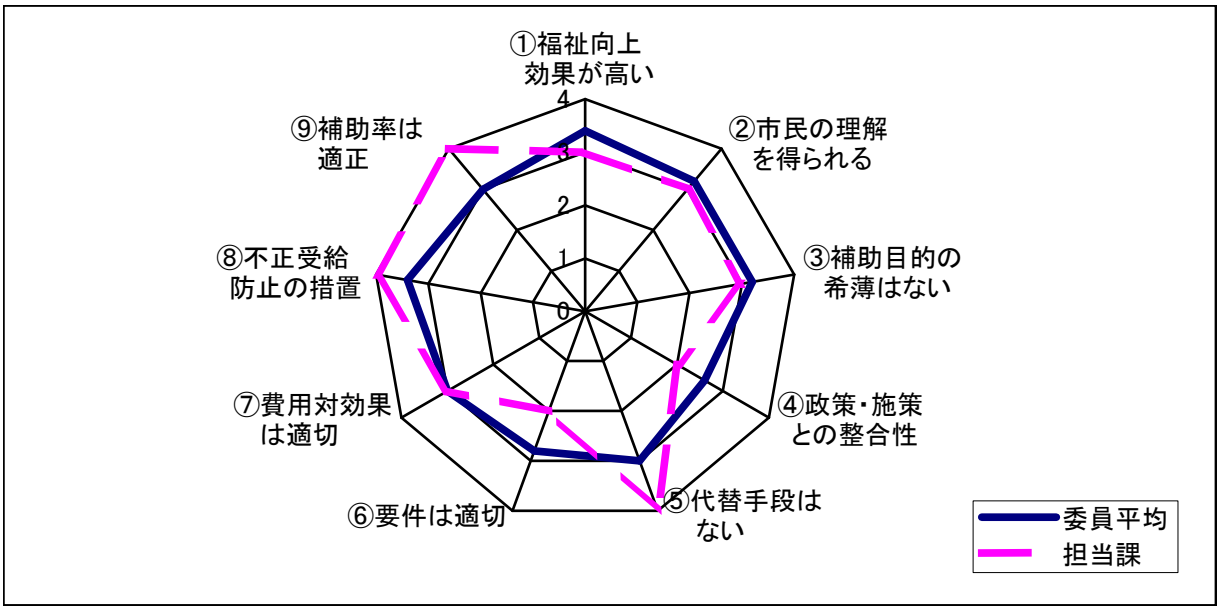
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	31	補助金名	自転車通学安全補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	2	5	2	
委員Ｂ	3	6		
委員Ｃ		3	6	
委員Ｄ	5	4		
委員Ｅ		7	2	
計	10	25	10	
①福祉向上効果が高い	＋	＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない	＋＋	＋＋	－	
④政策・施策との整合性	＋	＋＋＋	－	
⑤代替手段はない		＋＋＋＋＋		
⑥要件は適切	＋	＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切	＋	＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置	＋	＋＋＋＋		
⑨補助率は適正	＋＋	＋	－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			交通安全のための補助であるのか、自転車通学者がヘルメットを購入しなければならないことに対する経済負担の軽減のための補助であるのか、また、健康推進の視点と自転車通学をどう考えるかなど、市の政策、姿勢を明確にする必要がある。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期	＋		
切替			

３　その他特記事項

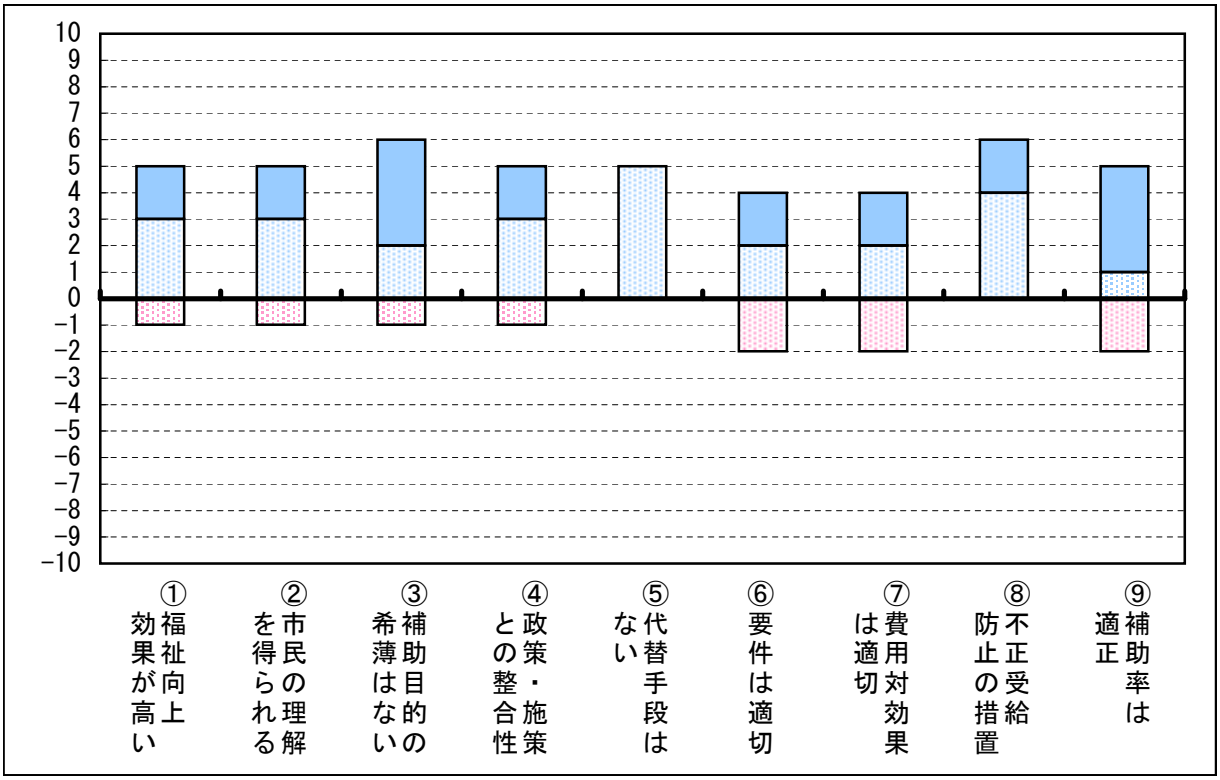
・金額に対する政策的説明が必要である。交通安全対策であるなら無償給付でもよい。
・交通安全と防災上の観点から、現在の通学者に対する補助だけでなく、小中学生に対する総合的な施策を検討してはどうか。
・子どもの健康のため自転車通学自体を取り止めた方がいいのではないか。
・歩いて通学することも健康のためにはよいが、朝の通学時はともかく、帰宅時に部活動への参加が難しくなるなどの問題が出るかもしれない。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	135点 ／ 180点	平均	27点 ／ 36点

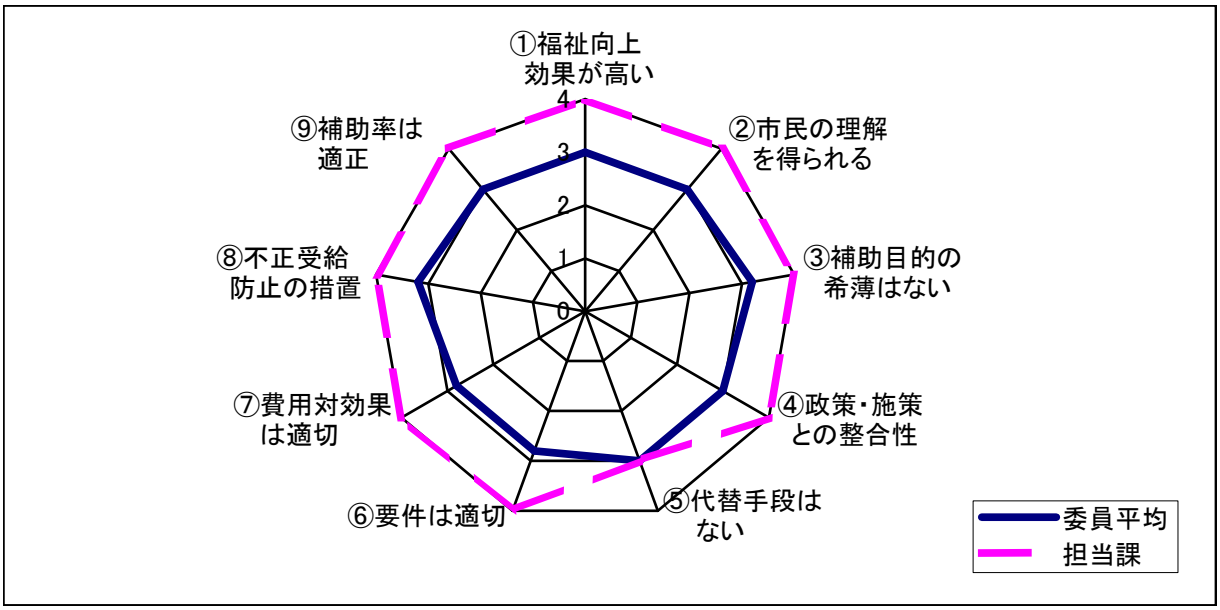
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	30	補助金名	私立高校等授業料補助金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	2	4	3	
委員Ｂ	3	5	1	
委員Ｃ		3	6	
委員Ｄ	3	4	2	
委員Ｅ	2	7		
計	10	23	12	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋＋	－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない	＋＋	＋＋	－	
④政策・施策との整合性	＋＋	＋＋	－	
⑤代替手段はない	＋＋	＋＋＋		
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置	＋	＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋	－－－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			教育に対する市の政策、姿勢により方向性が異なる場合があるので、教育に対する市の政策、姿勢を整理し、明確にされたい。
継続	＋＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

3　その他特記事項

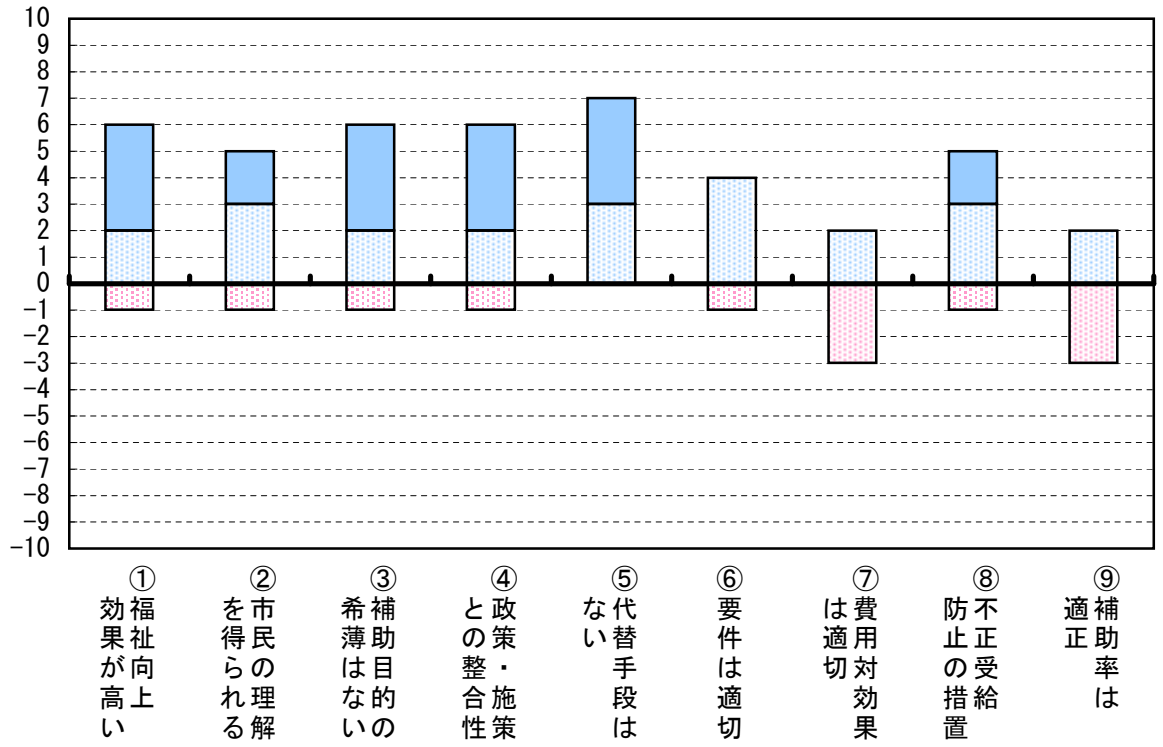
・所得格差により子どもの能力を伸ばすことができないのは問題であり、その格差を是正するために補助金を交付することは行政の重要な役割である。市町村によって額が違うのは、首長の教育に対する理念の違いである。
・将来を担う青少年の教育充実のため、補助金額の増額を検討すべきである。
・保護者の経済的負担軽減のためにも継続すべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	133点 ／ 180点	平均	26.6点 ／ 36点

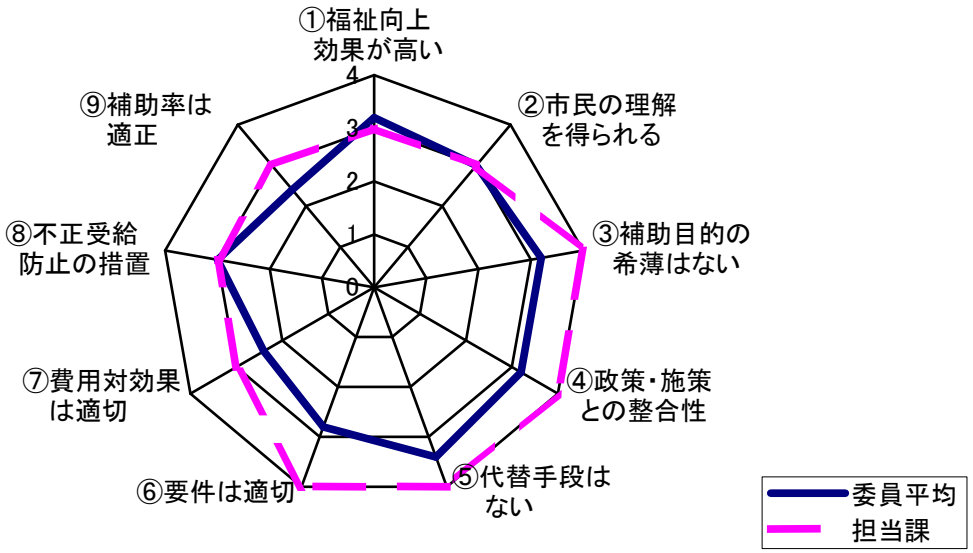
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	21	補助金名	成年後見人等報酬費用助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	6	1	1
委員Ｂ		7	2	
委員Ｃ	2	7		
委員Ｄ		8	1	
委員Ｅ		9		
計	3	37	4	1
①福祉向上効果が高い		＋＋＋＋＋		
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋＋		
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋＋		
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない	＋	＋＋＋＋		
⑥要件は適切		＋＋＋＋＋		
⑦費用対効果は適切		＋＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置	＋	＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋	－－	－

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋＋		現在の予算額では妥当性を欠くため、見直しが必要である。
継続	＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

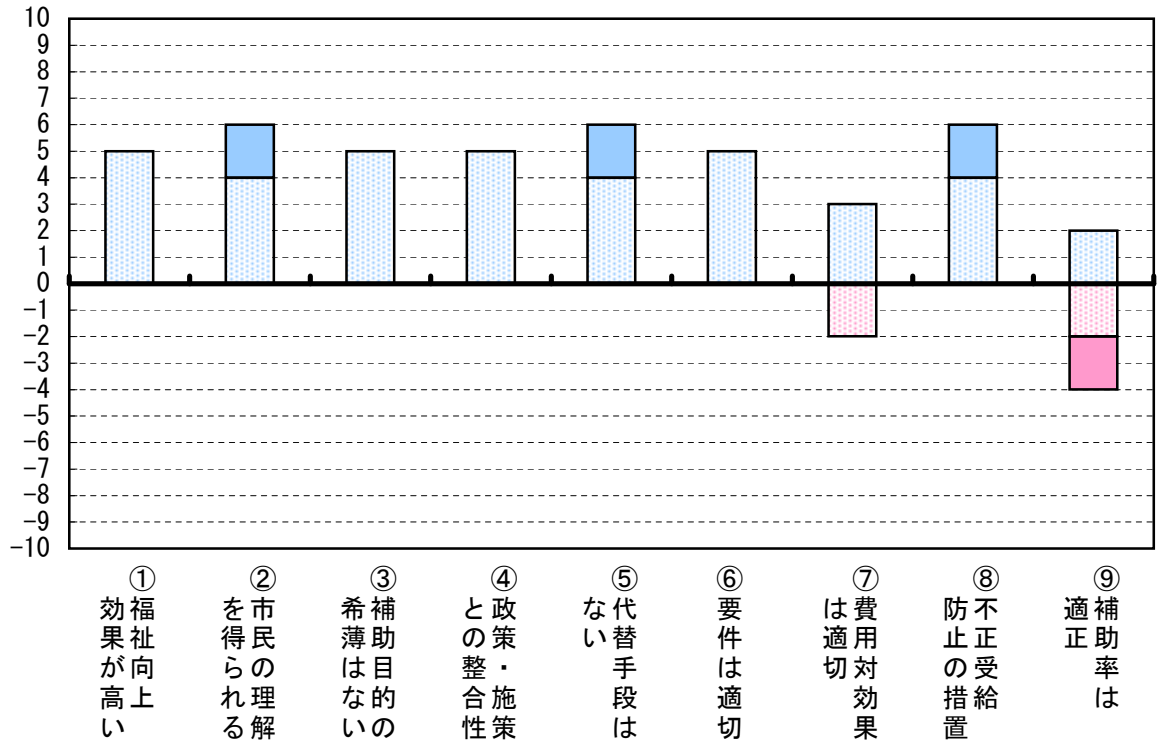
・要綱が抽象的過ぎる。１名に対する補助金の限度額を明確にすべきである。
・平成２０年度の予算額では妥当性を欠くため、要綱とともに検討した方がいい。
・金額を常識の範囲内で拡大し、本制度の普及を図られたい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	132点 ／ 180点	平均	26.4点 ／ 36点

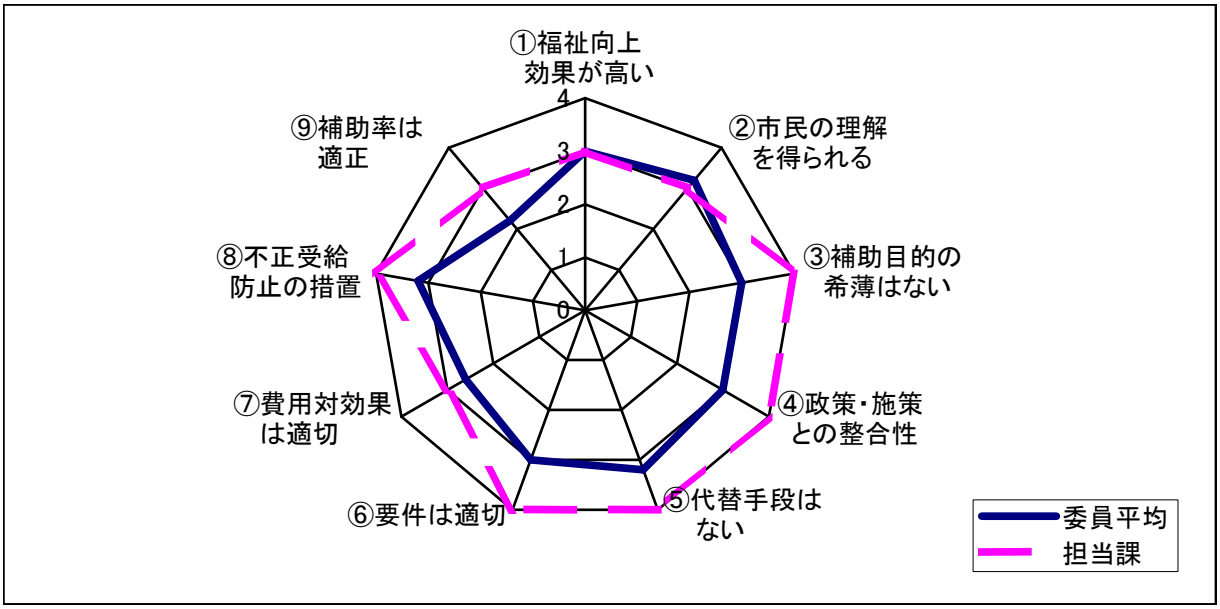
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	29	補助金名	私立幼稚園就園奨励費補助金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	2	3	4	
委員Ｂ	4	4	1	
委員Ｃ		3	6	
委員Ｄ	3	4	2	
委員Ｅ	1	6	2	
計	10	20	15	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋＋	－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない	＋＋	＋	－－	
④政策・施策との整合性	＋＋	＋＋	－	
⑤代替手段はない	＋	＋＋＋＋		
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置	＋＋	＋＋	－	
⑨補助率は適正			－－－－－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		拡大すべきという意見と縮小すべきという意見もあった。幼児教育に対する市の政策、姿勢により方向性が異なるものであるので、幼児教育に対する市の政策、姿勢を整理し、明確にされたい。
継続	＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期			
切替			

3　その他特記事項

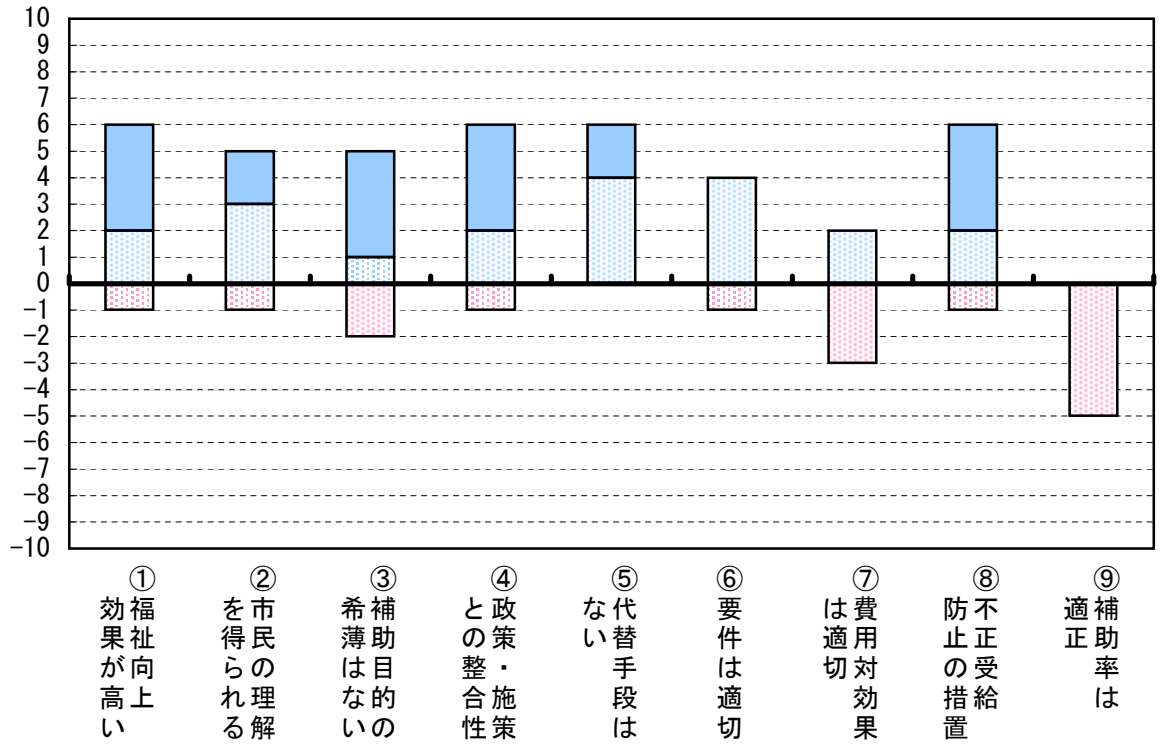
・所得格差により子どもの能力を伸ばすことができないのは問題であり、その格差を是正するために補助金を交付することは行政の重要な役割である。市町村によって額が違うのは、首長の教育に対する理念の違いである。
・子どもは地域で育てるものであり、公金を投入することに十分な合理性がある。
・ベビーブームの時代と少子化の現在で同じ金額というのはいかがなものか。少子化の理由として、教育費、養育費が高いという統計もある。対象者も少なくなってきていることだし、子どもの健やかな成長と幼児教育の一層の充実の観点から、補助金の増額を検討してもいいのではないか。
・私立幼稚園の就園率が現状程度あるなら、公金を使用すべきではないと思う。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	130点 ／ 180点	平均	26点 ／ 36点

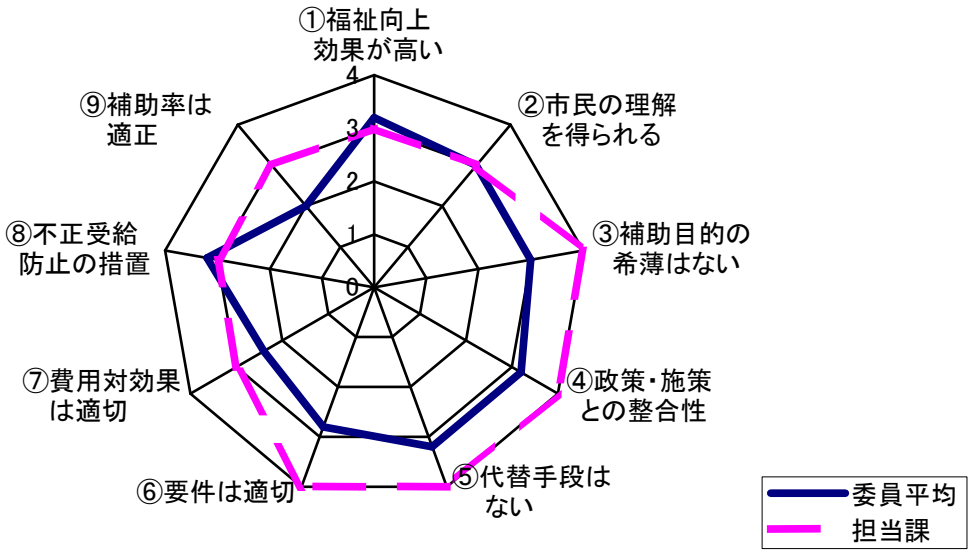
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	11	補助金名	尾張あさひ苑利用者助成金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	8		
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		4	5	
委員Ｄ	2	7		
委員Ｅ		8	1	
計	3	32	10	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋	－－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋＋		
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋＋		
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋＋＋	－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋	－－－	
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		健康増進につながるため、利用者の拡大を図られたい。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

3　その他特記事項

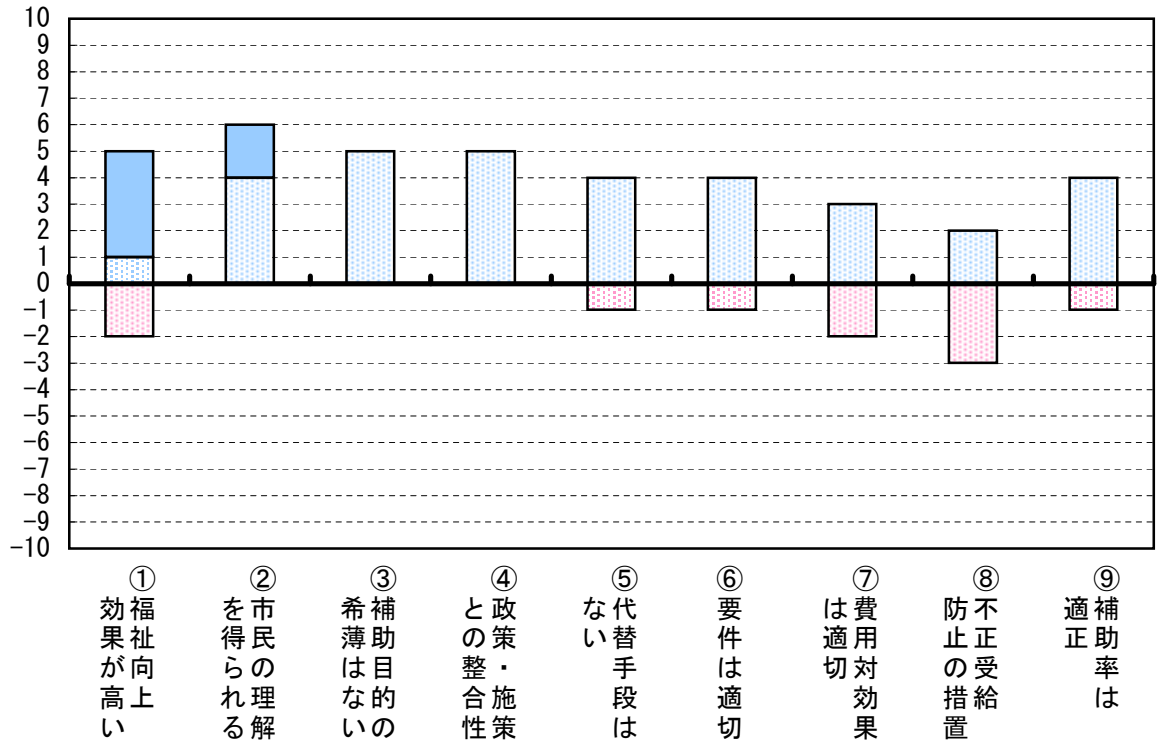
・体験利用制度などの対策を考えてはどうか。
・助成金額を引き上げて、使用率を高めてほしい。
・健康福祉の向上に一層の効果がある方向で拡大したい。
・制度をもっと市民に周知して、利用者の拡大を図るべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	128点 ／ 180点	平均	25.6点 ／ 36点

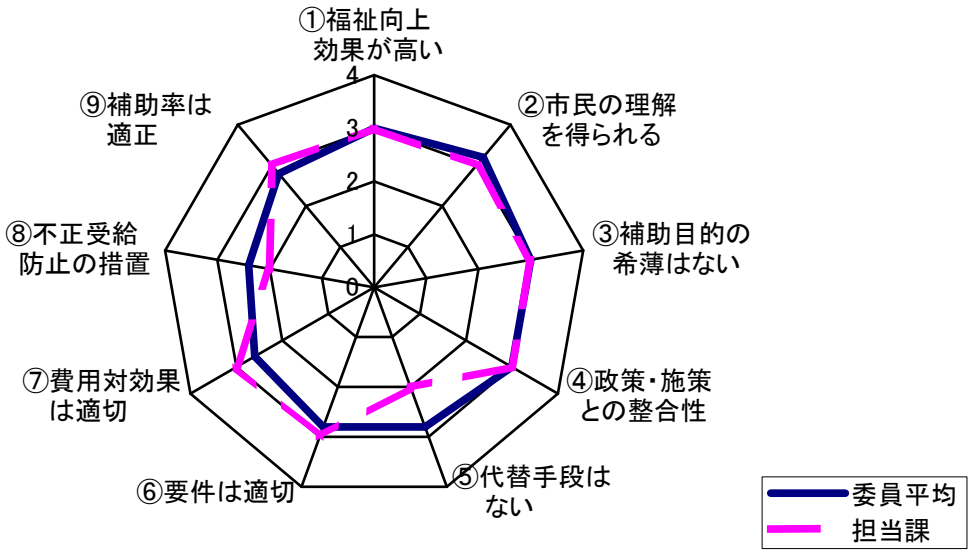
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	10	補助金名	生ごみ処理機購入補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		8	1	
委員Ｂ		8	1	
委員Ｃ		3	6	
委員Ｄ		9		
委員Ｅ		9		
計		37	8	
①福祉向上効果が高い		＋＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる		＋＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋＋＋	－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			ごみ減量に対する補助金の整理統合など、補助金制度の総合的な見直しが必要である。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

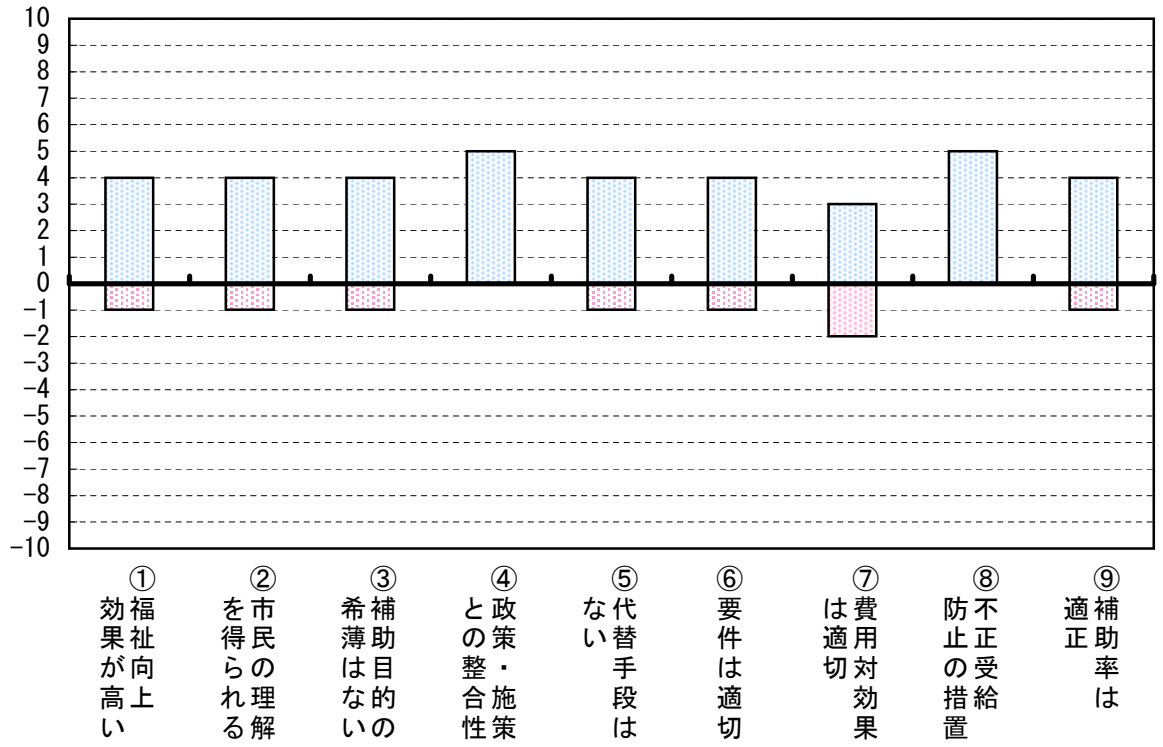
・環境問題が重要な社会情勢の下、市民に対する啓発の手段としてもしばらくは継続としたい。
・生ごみを減らし、収集されるごみが縮小されると思う。
・堆肥化容器購入補助金と発酵用密閉容器購入補助金を廃止して、この補助金のみとしてもよいのではないか。
・生ごみ関係の３つの補助金を統一して、１つにしてはどうか。
・今までの生ごみ対策に対する補助金の実績も踏まえて、市として包括的に検討するべきである。
・最新の処理機も検討して、補助金のあり方を再構築してもらいたい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	127点 ／ 180点	平均	25.4点 ／ 36点

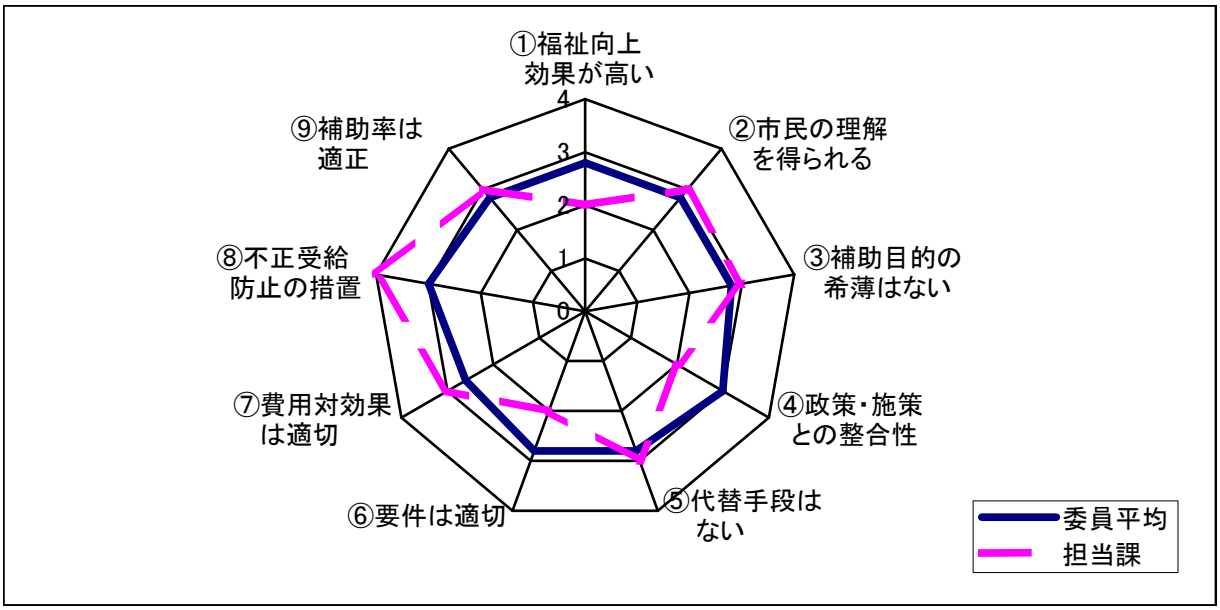
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	7	補助金名	合併処理浄化槽設置費補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		6	3	
委員Ｂ		4	5	
委員Ｃ	1	3	5	
委員Ｄ	2	7		
委員Ｅ		9		
計	3	29	13	
①福祉向上効果が高い		＋＋＋	－－	
②市民の理解を得られる		＋＋＋	－－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋	－	
⑤代替手段はない		＋＋＋＋	－	
⑥要件は適切	＋	＋	－－－	
⑦費用対効果は適切	＋	＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置	＋	＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			対象者は限られているが、下水道未普及地域に住んでいる世帯のためのものである。下水道が普及するまでは継続する必要がある。
継続	＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止	＋		
終期			
切替			

３　その他特記事項

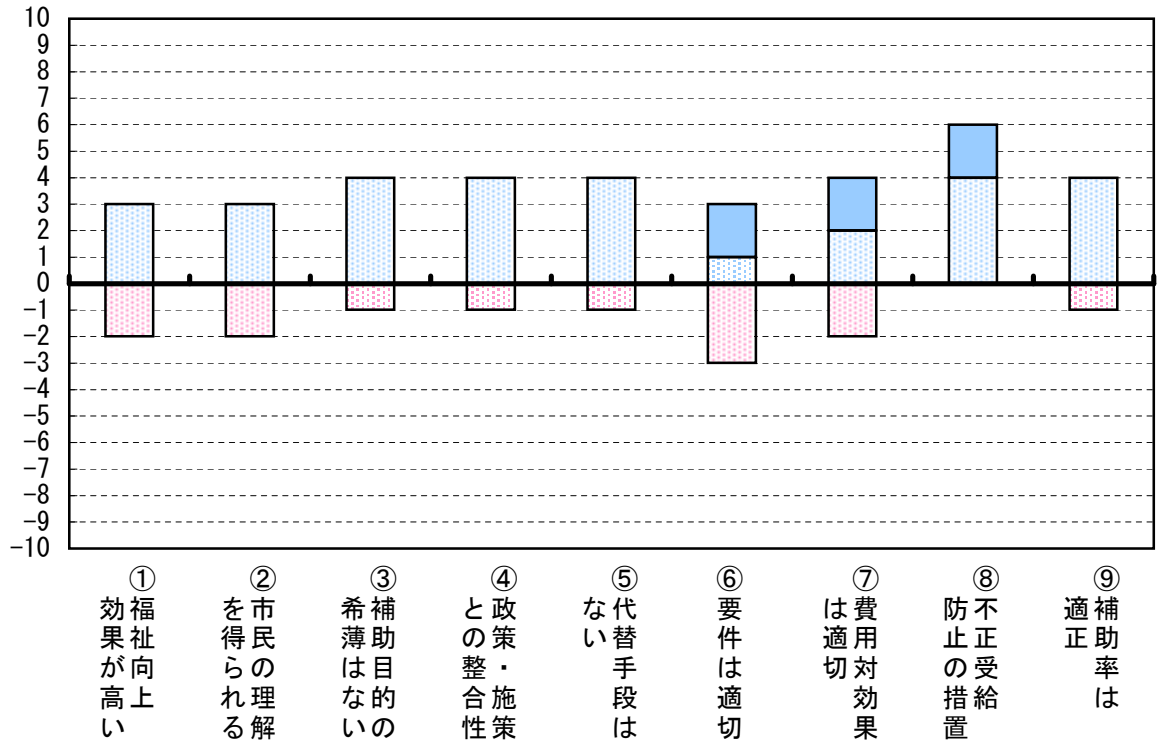
・これだけ件数が少ないと、補助金を出す意味があまりないのではないか。公平性、平等性という点でどうか。
・現状の補助対象世帯数では、水質汚濁防止にどの程度の効果があるのか疑問である。
・下水道が普及していない地域に住んでいる世帯のためのものであり、下水道が普及していれば必要のない補助金である。
・潜在的な需要がどれだけあるかわからないが、需要があるうちは継続としたい。
・公平性を確保するため、申請の締切日を決めて抽選にした方がよい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	125点 ／ 180点	平均	25点 ／ 36点

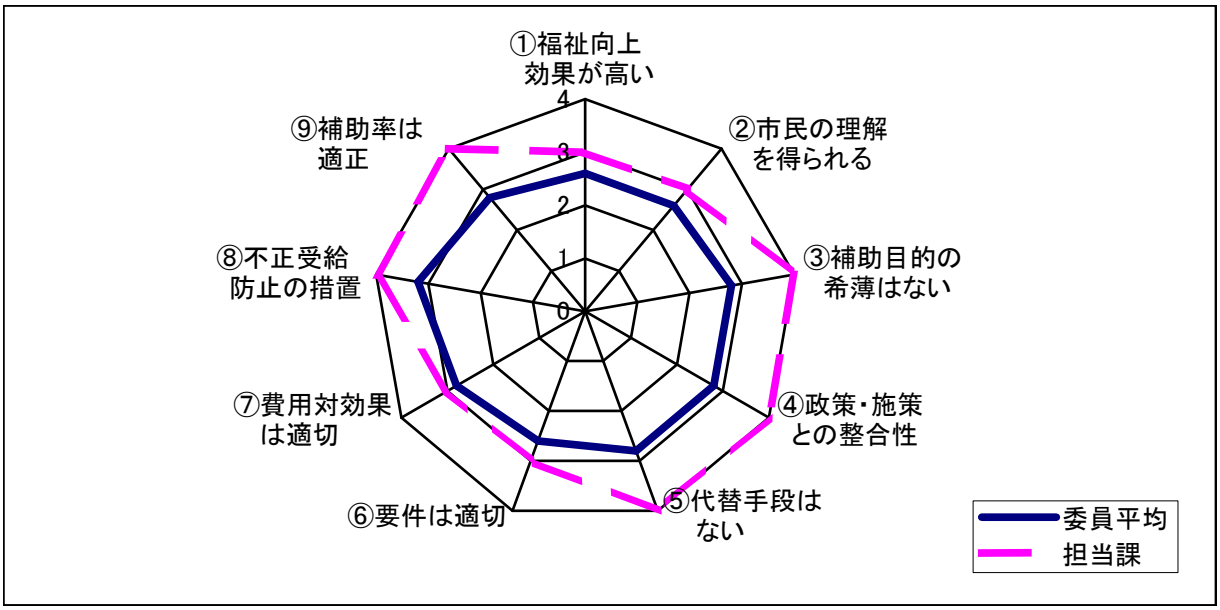
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	16	補助金名	緊急連絡用シルバーホン使用料補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		4	5	
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		4	5	
委員Ｄ	4	5		
委員Ｅ		7	2	
計	4	25	16	
①福祉向上効果が高い		＋＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない	＋	＋	－－－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋	－－－－	
⑥要件は適切	＋	＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切	＋	＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			個人に対して現金を交付するのではなく、別の方法を検討されたい。
継続	＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期	＋		
切替			

３　その他特記事項

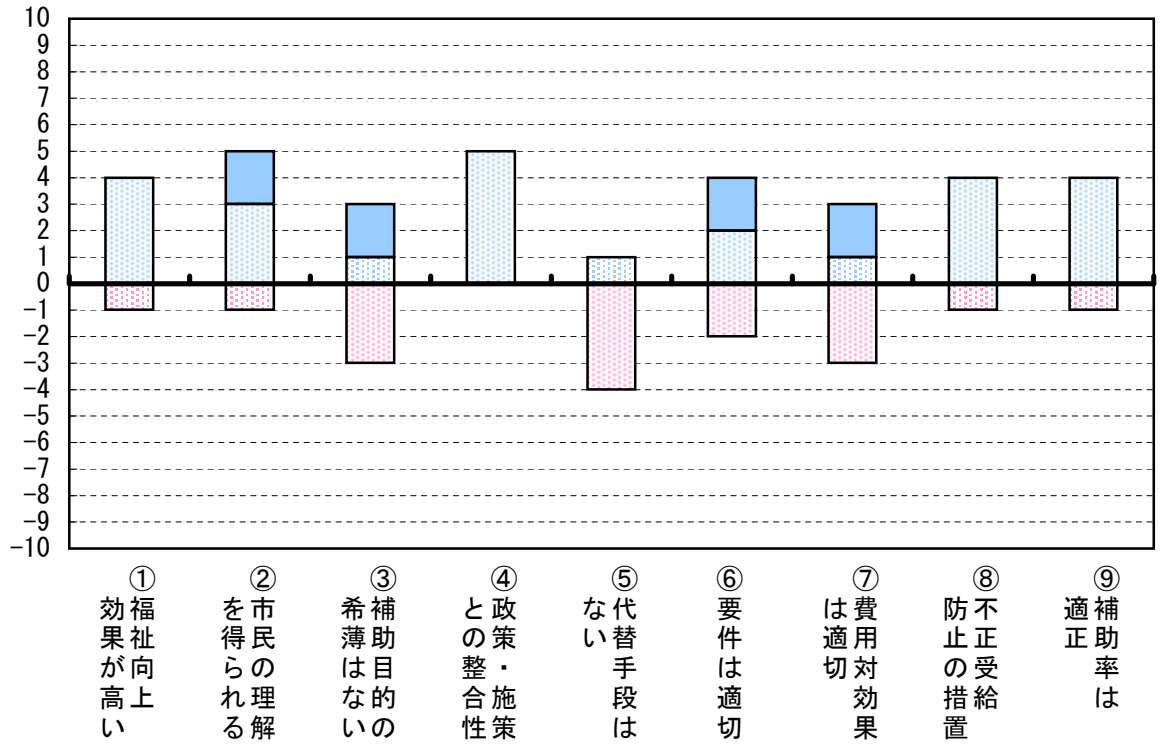
・携帯電話も普及してきており、安心料としてなら他の方法もあるのではないか。
・本当の緊急時には使用が不可能であると思われるので、他の対策をしてはどうか。
・心臓病等の持病を持つ者に限定してもよいのではないか。
・費用対効果を把握するため、通報先で、件数、内容、処理状況についての統計を作成する必要がある。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	123点 ／ 180点	平均	24.6点 ／ 36点

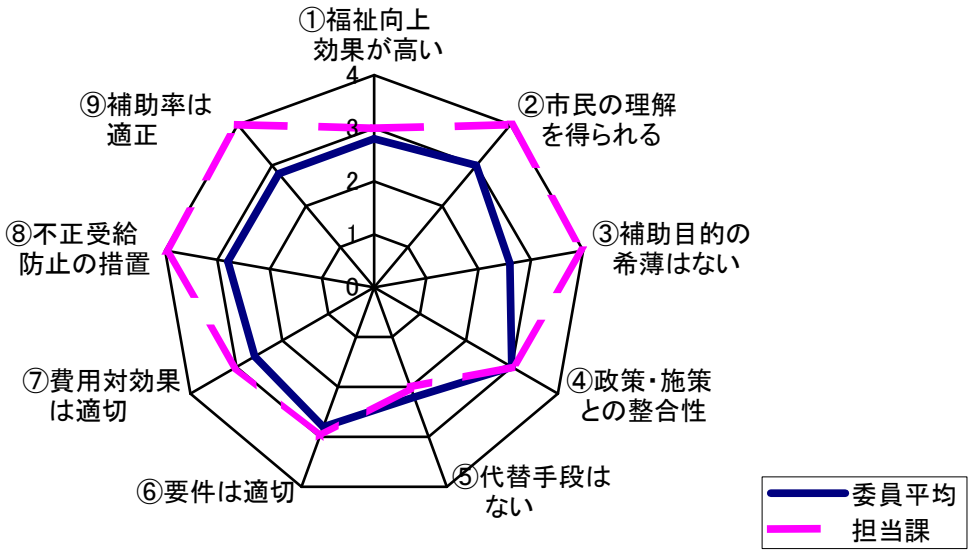
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	2	補助金名	勤労者尾張あさひ苑利用助成金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	6	2	
委員Ｂ		6	3	
委員Ｃ		6	3	
委員Ｄ	2	6	1	
委員Ｅ		2	7	
計	3	26	16	
①福祉向上効果が高い	＋＋	＋	－－	
②市民の理解を得られる	＋	＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋＋		
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋	－－－－	
⑨補助率は適正		＋＋＋	－－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		健康増進につながるため、利用者の拡大を図られたい。
継続	＋＋＋	○	
縮減			
廃止	＋		
終期			
切替			

3　その他特記事項

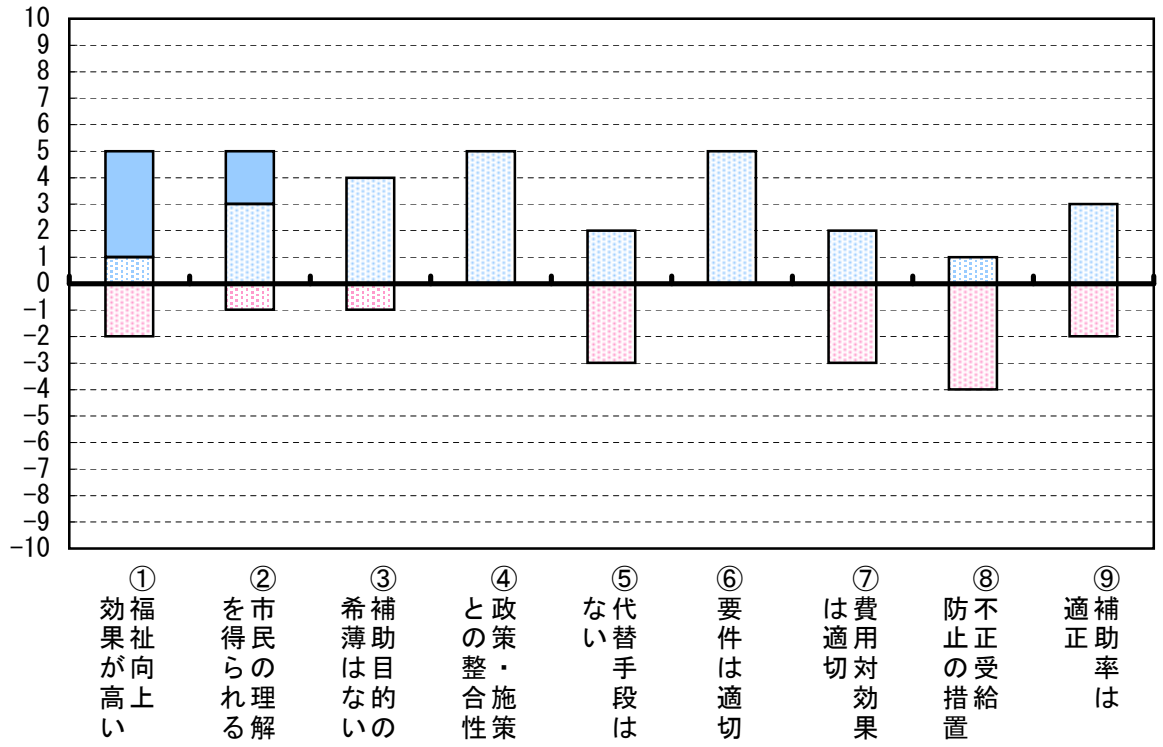
・利用者人数との関係はあるが、助成金は市内在住者に限定してはどうか。
・助成金の交付方法を検討し、より一層の普及を図りたい。
・商工会を通じて広報を充実し、利用者の増加に努められたい。
・市民の健康福祉に貢献する補助金と認められる。指定管理者に委託料を払うなら、補助金額を増額し、より多くの人に利用されるようにしてはどうか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	122点 ／ 180点	平均	24.4点 ／ 36点

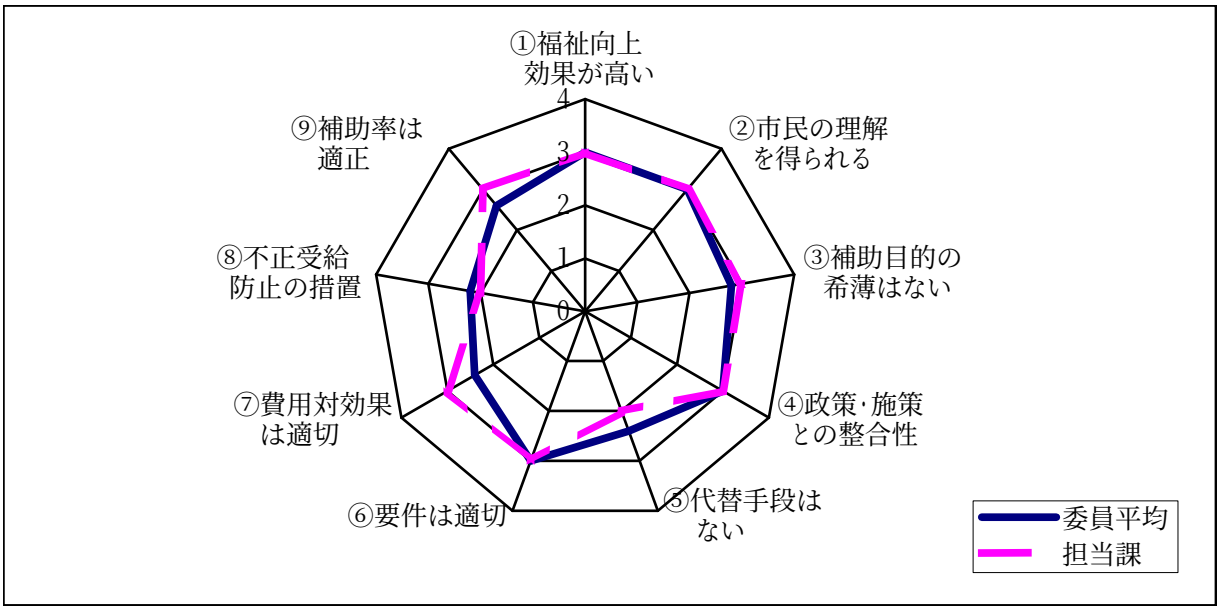
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	14	補助金名	障害者（児）タクシー基本料金助成金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	5	3	
委員Ｂ		7	2	
委員Ｃ		4	5	
委員Ｄ		7	2	
委員Ｅ		7	2	
計	1	30	14	
①福祉向上効果が高い	＋	＋＋＋＋		
②市民の理解を得られる		＋＋＋＋＋		
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋	－－－－	
⑨補助率は適正		＋＋＋	－－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		障害者福祉の一環として重要な施策である。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減			
廃止			
終期			
切替			

3　その他特記事項

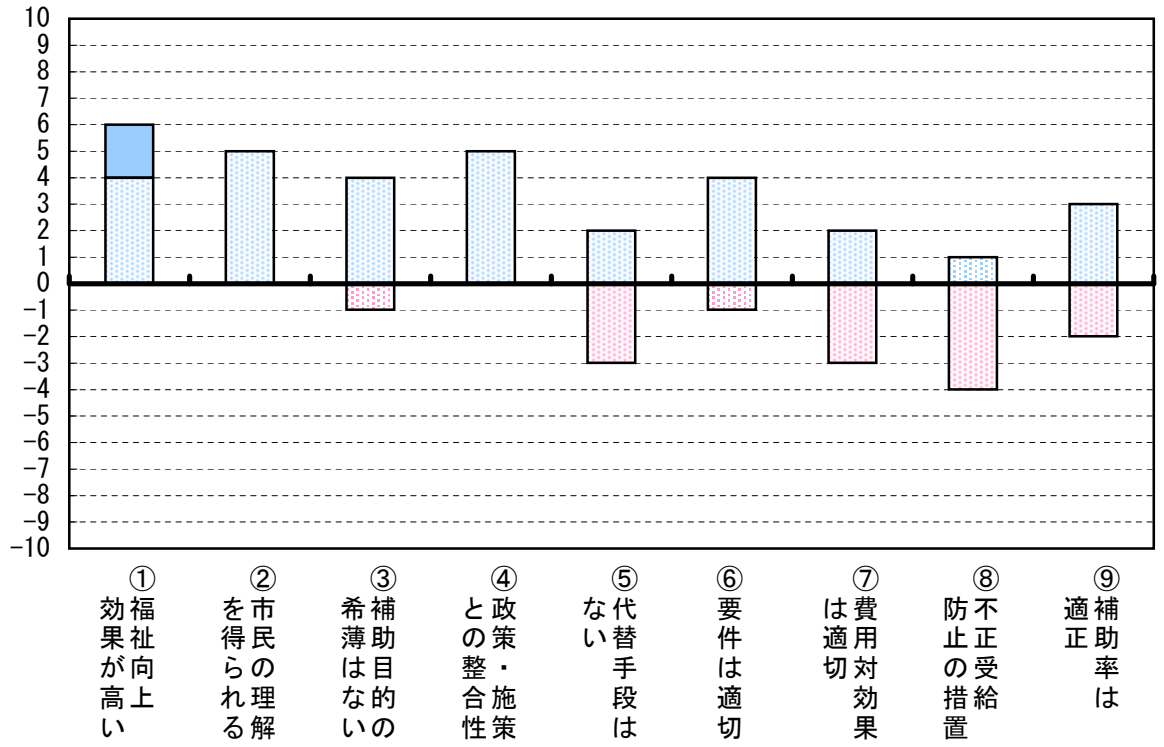
・障害者福祉の充実のため対象者の拡大を検討した方がよい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	122点 ／ 180点	平均	24.4点 ／ 36点

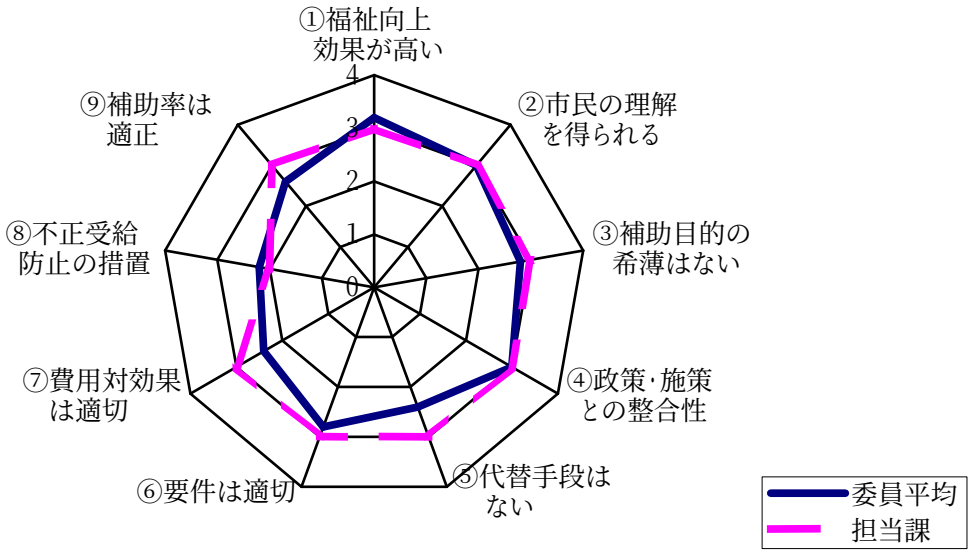
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	4	補助金名	商工業振興資金等信用保証料助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		9		
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		4	5	
委員Ｄ		6	2	1
委員Ｅ		8	1	
計		32	12	1
①福祉向上効果が高い		＋＋	－－	－
②市民の理解を得られる		＋＋	－－－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋＋		
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋＋		
⑤代替手段はない		＋＋＋＋	－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋	－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			中小企業の経営安定のため、制度目的の周知に努められたい。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

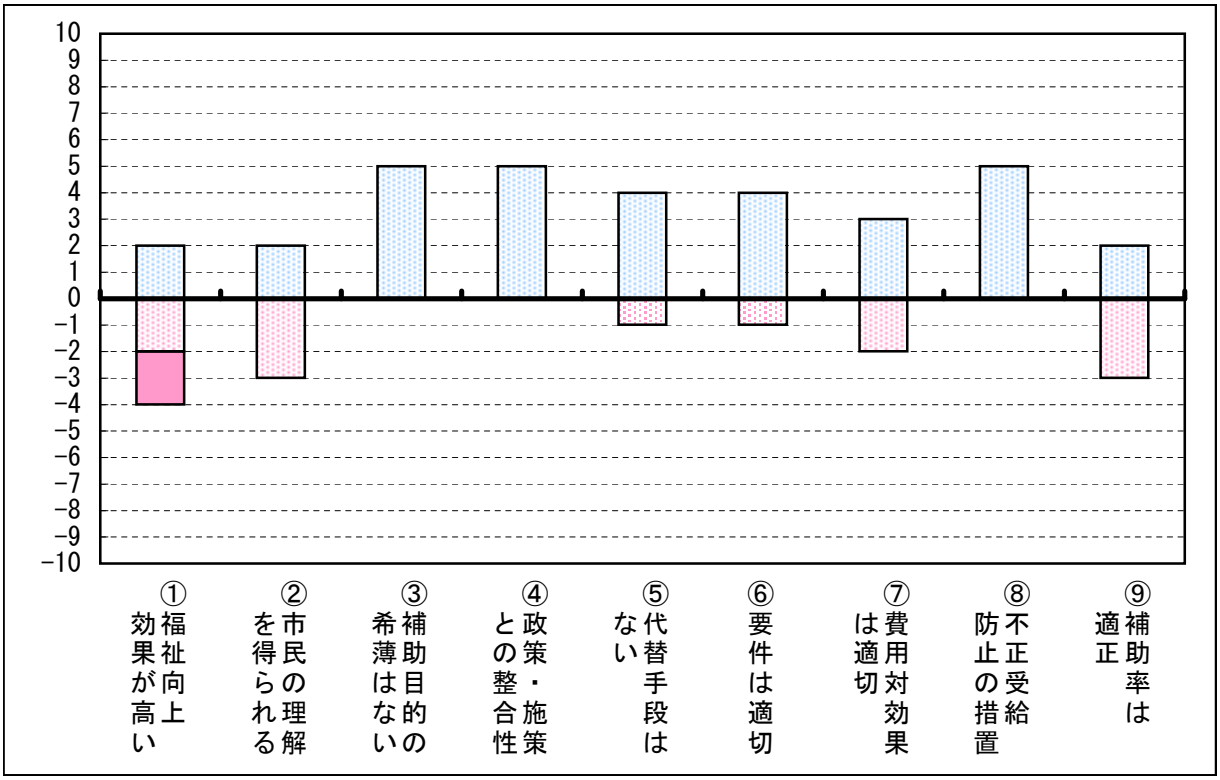
・特定企業に限られているのであれば、見直す必要がある。
・中小企業の経営安定に資するものであるため、さらに制度目的の周知に努められたい。
・社会性のある施策として継続すべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	121点 ／ 180点	平均	24.2点 ／ 36点

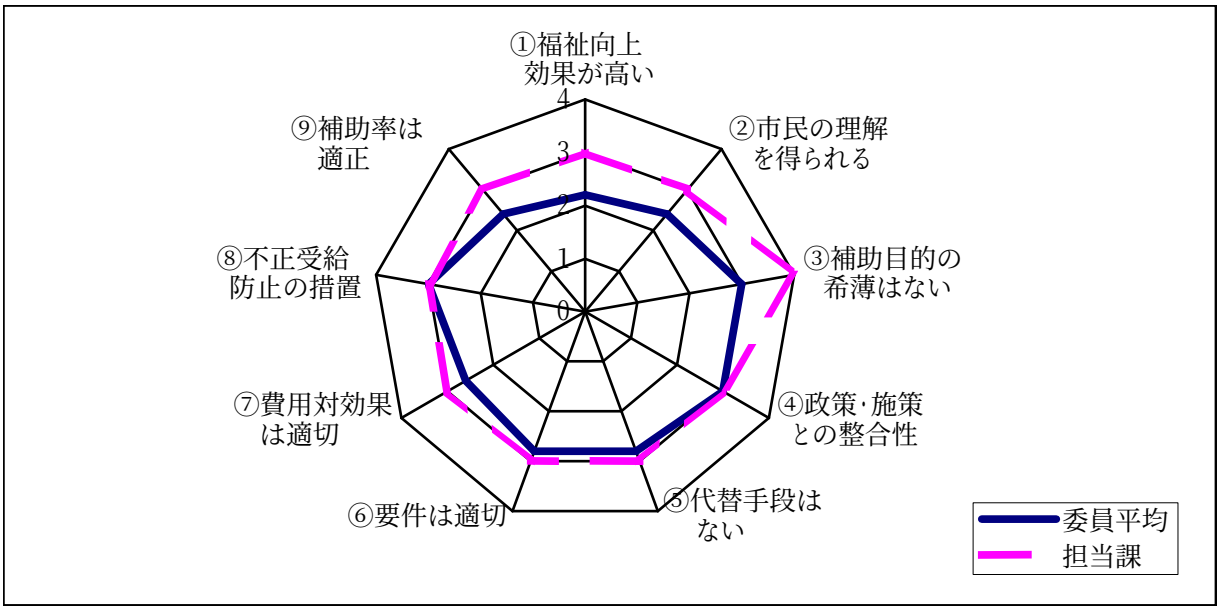
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	19	補助金名	介護支援事業費助成金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		6	3	
委員Ｂ		8	1	
委員Ｃ		5	4	
委員Ｄ		7	2	
委員Ｅ		5	4	
計		31	14	
①福祉向上効果が高い		＋＋	－－－	
②市民の理解を得られる		＋＋＋＋＋		
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋	－	
⑤代替手段はない		＋	－－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋＋	－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			要介護者等の住宅改修に必要である。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期			
切替			

3　その他特記事項

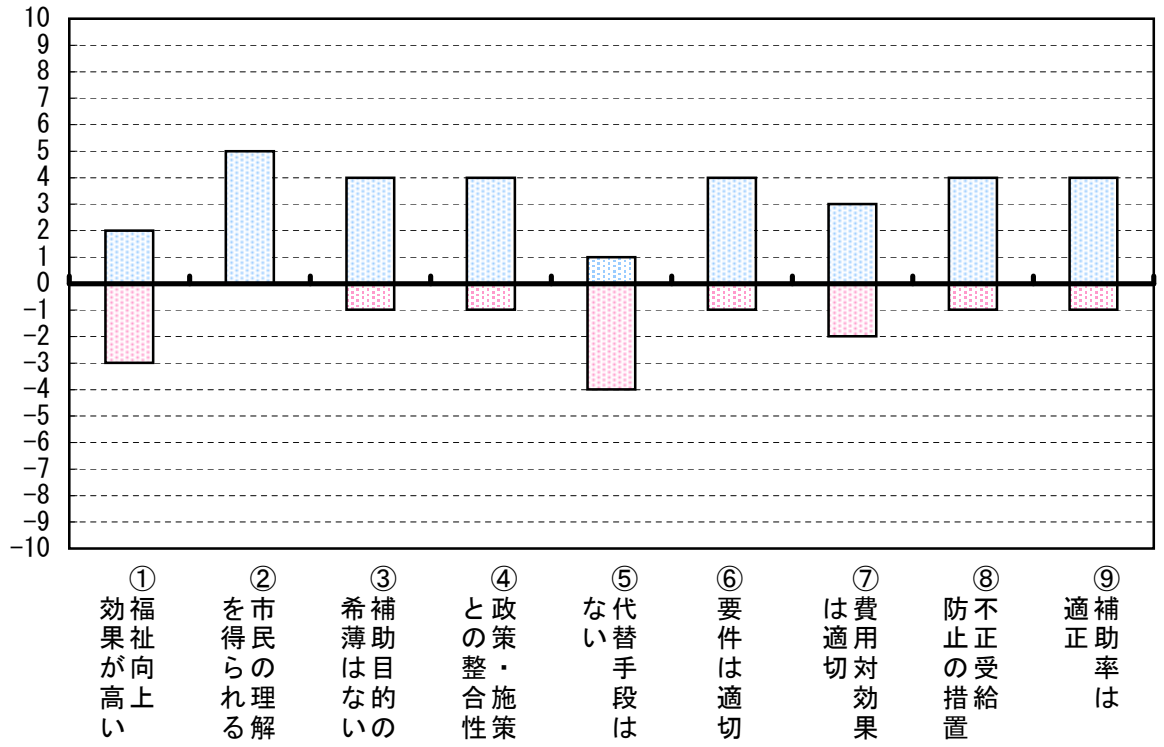
・自己負担すべきではないか。
・市民福祉の向上のためにも継続したい。
・将来的には交付額の増額を検討すべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	121点 ／ 180点	平均	24.2点 ／ 36点

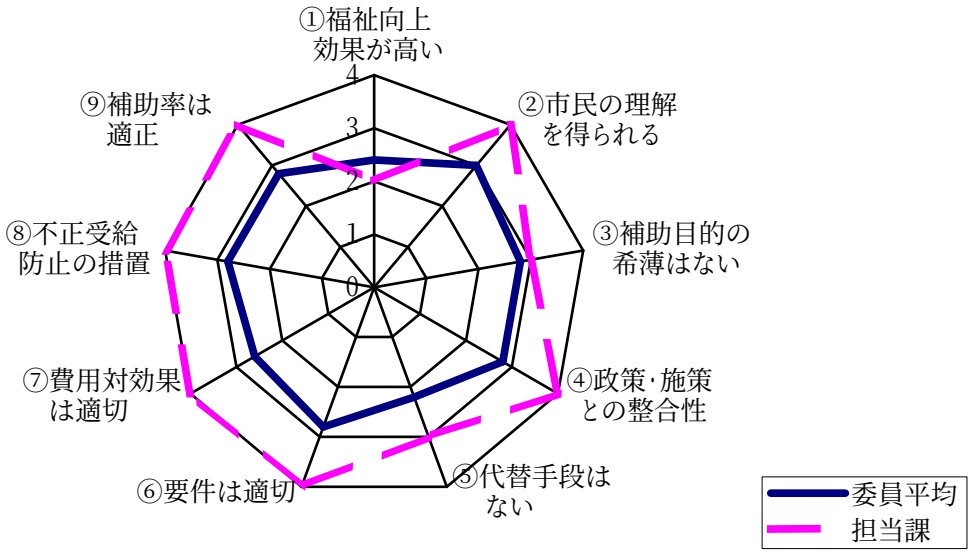
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	25	補助金名	保存樹等保全助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	2	7		
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		3	6	
委員Ｄ		2	7	
委員Ｅ		6	3	
計	2	23	20	
①福祉向上効果が高い	＋	＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる		＋＋	－－－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋	－－	
④政策・施策との整合性	＋	＋＋＋	－	
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋	－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大	＋		賛否両論あった。保存樹の保全に対する市の意向がどのような方向にあるのかを明確にする必要がある。
継続	＋＋	○	
縮減	＋＋		
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

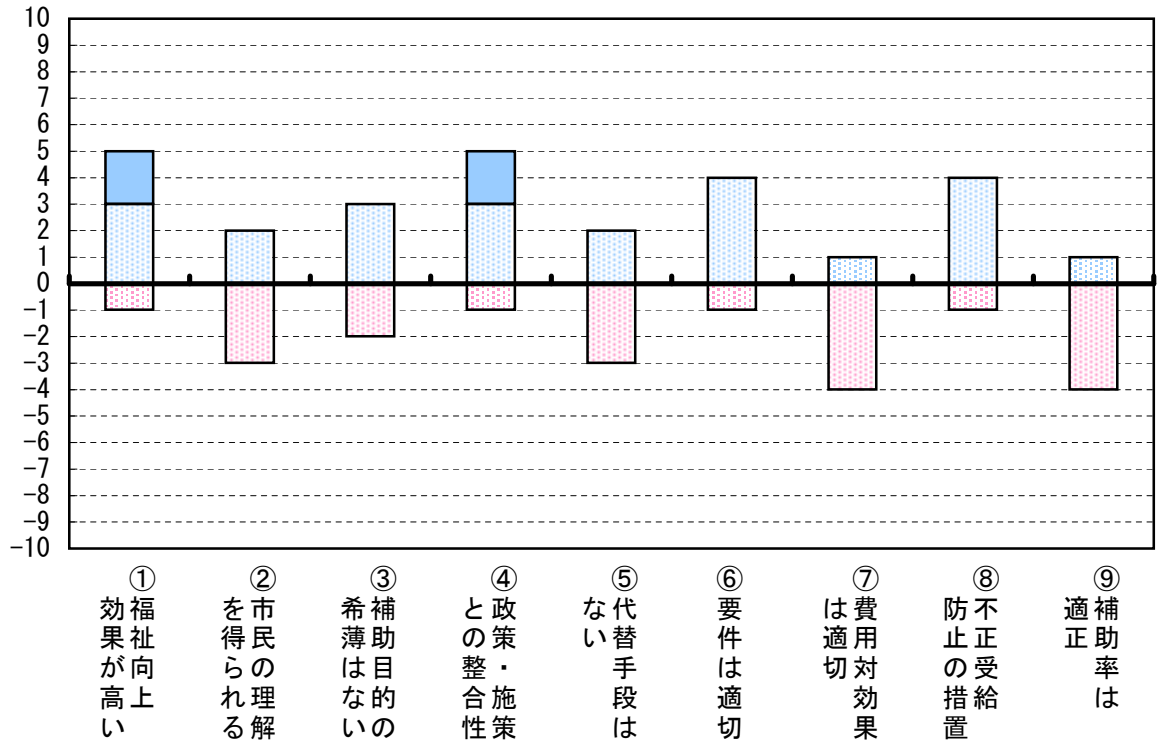
・特定の樹木は決めるべきであるが、特定の市民に公金を使用すべきではない。
・公園等の公的な場所にある樹木は残すべきであると思うが、個人所有の樹木は各自で保存すべきではないか。
・保存樹の維持管理面から助成額を少し拡大し、所有者の管理意欲を促す方が制度目的に合致すると思う。
・尾張旭市は公園都市をスローガンにしている。市全体を緑豊かな市にしたいというのは大事な視点であり、樹齢何百年という大きな樹木を地域社会のシンボルとして大事にするというのもいいことであると思う。
・保存樹の保全は都市景観の上からも長期的視点で評価したい。周辺住民の理解と協力を得ることも必要である。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	117点 ／ 180点	平均	23.4点 ／ 36点

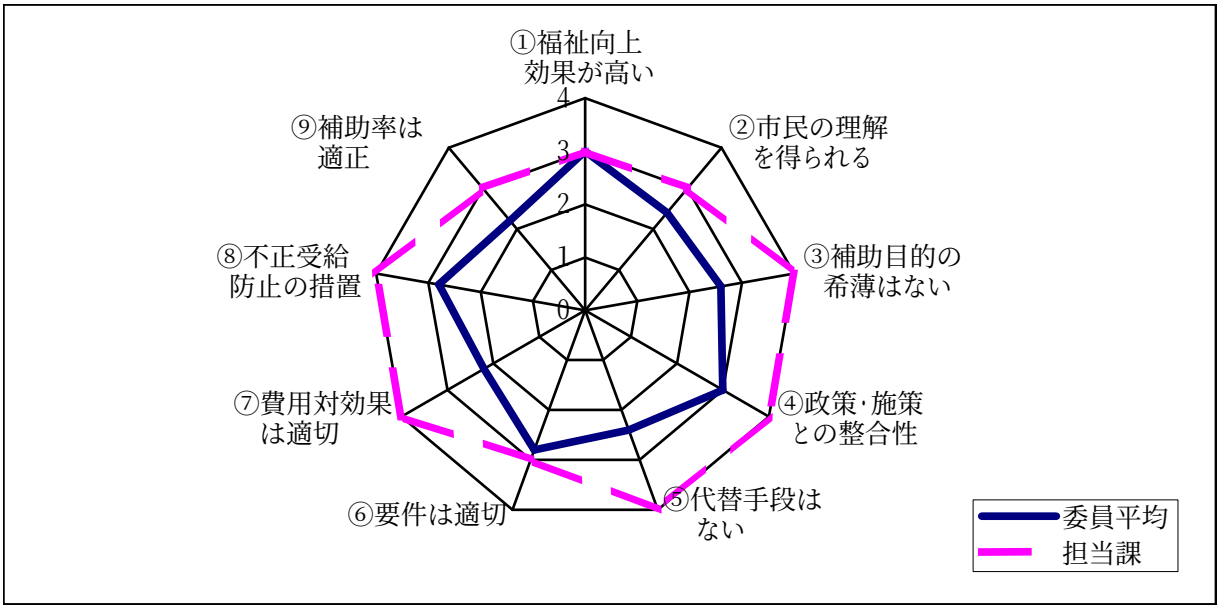
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	18	補助金名	高齢者タクシー基本料金助成金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		5	4	
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ		7	2	
委員Ｅ		6	3	
計		25	20	
①福祉向上効果が高い		＋＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる		＋＋＋＋	－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋＋	－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋＋	－	
⑤代替手段はない		＋＋＋	－－	
⑥要件は適切		＋＋	－－－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－－	
⑧不正受給防止の措置			－－－－－	
⑨補助率は適正		＋＋＋	－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			高齢者の外出支援は重要な問題であるが、健康増進の観点からは巡回バスの積極的な利用も効果的であると思われるため、巡回バスの利用促進対策と一体で制度を検討されたい。
継続	＋＋＋＋	○	
縮減	＋		
廃止			
終期			
切替			

３　その他特記事項

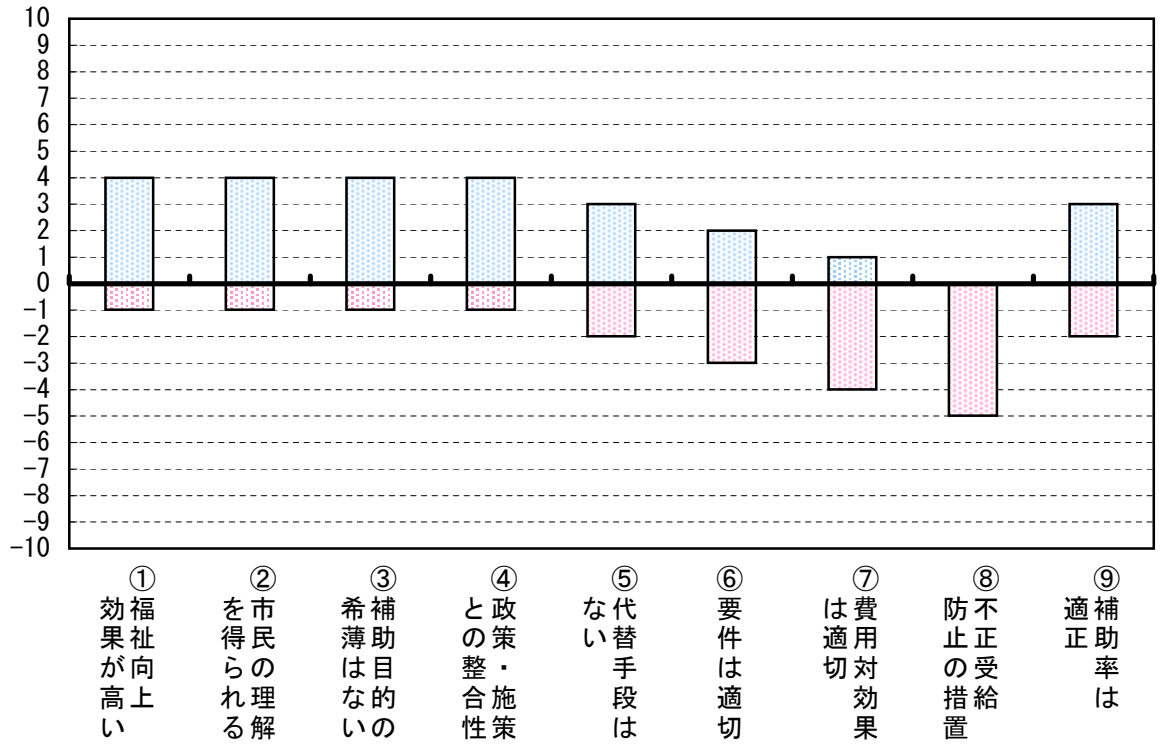
・健康都市を目標とする市の方針からはこの補助金の拡大は疑問である。交付要件の再検討が必要ではないか。
・市営バスに敬老パスを導入するなど市営バスの利用者促進策の検討も必要である。
・補助目的を高めるためには、36枚の交付枚数は少ないのではないか。例えば、高齢者を80歳台、90歳台に分け、90歳台は交付枚数の拡大を図るなどの見直してもよいのではないか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	115点 ／ 180点	平均	23点 ／ 36点

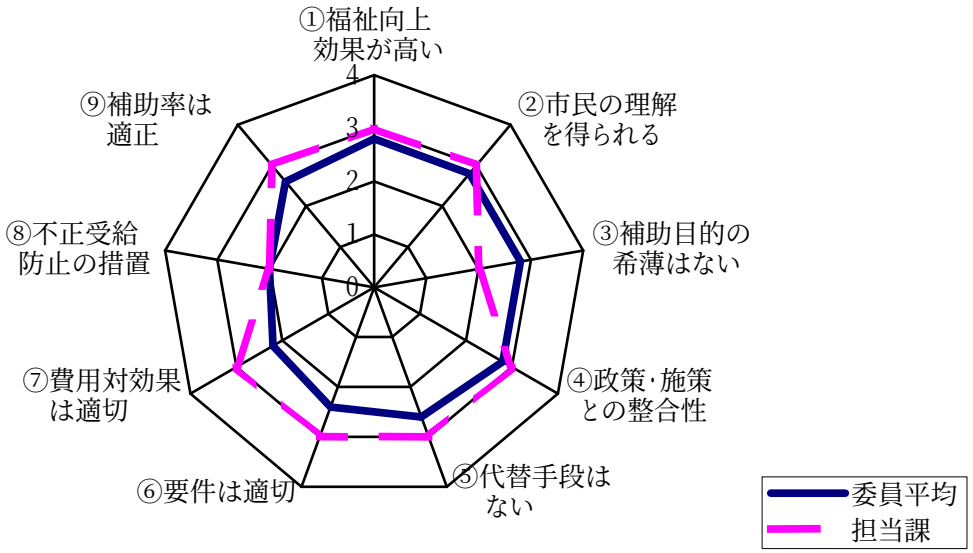
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	20	補助金名	家族介護慰労事業補助金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		3	6	
委員Ｂ		3	6	
委員Ｃ		7	2	
委員Ｄ		4	5	
委員Ｅ		5	4	
計		22	23	
①福祉向上効果が高い		＋	－－－－	
②市民の理解を得られる		＋	－－－－	
③補助目的の希薄はない		＋	－－－－	
④政策・施策との整合性		＋＋＋	－－	
⑤代替手段はない		＋	－－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋＋	－	
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋＋＋	－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			補助金の趣旨、目的としては理解できるが、対象世帯が少ないため、この制度としては廃止して他の福祉施策で対処する可能性を検討されたい。
継続			
縮減	＋		
廃止	＋＋	○	
終期	＋		
切替	＋		

3　その他特記事項

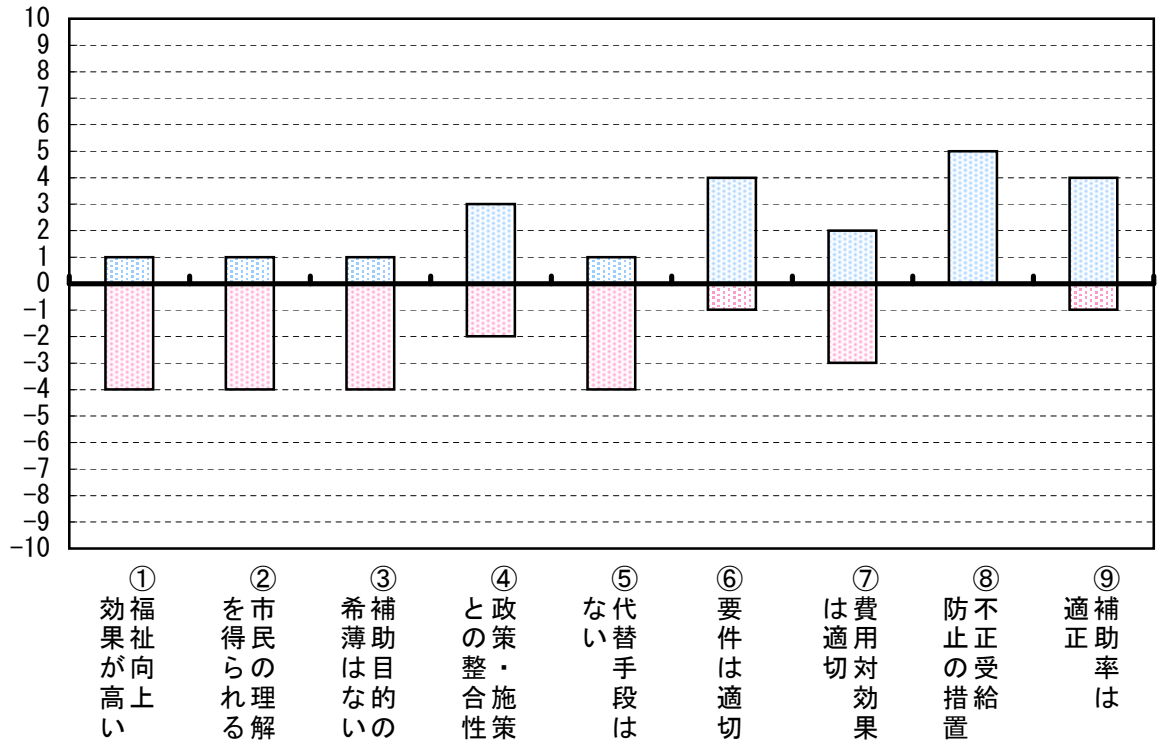
・施策としての理念は理解できるが、現実性は乏しい。
・対象世帯が少ないため、社会福祉協議会が実施するよう検討してはどうか。
・慰労金としてではなく、他の方法があるのではないか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	112点 ／ 180点	平均	22.4点 ／ 36点

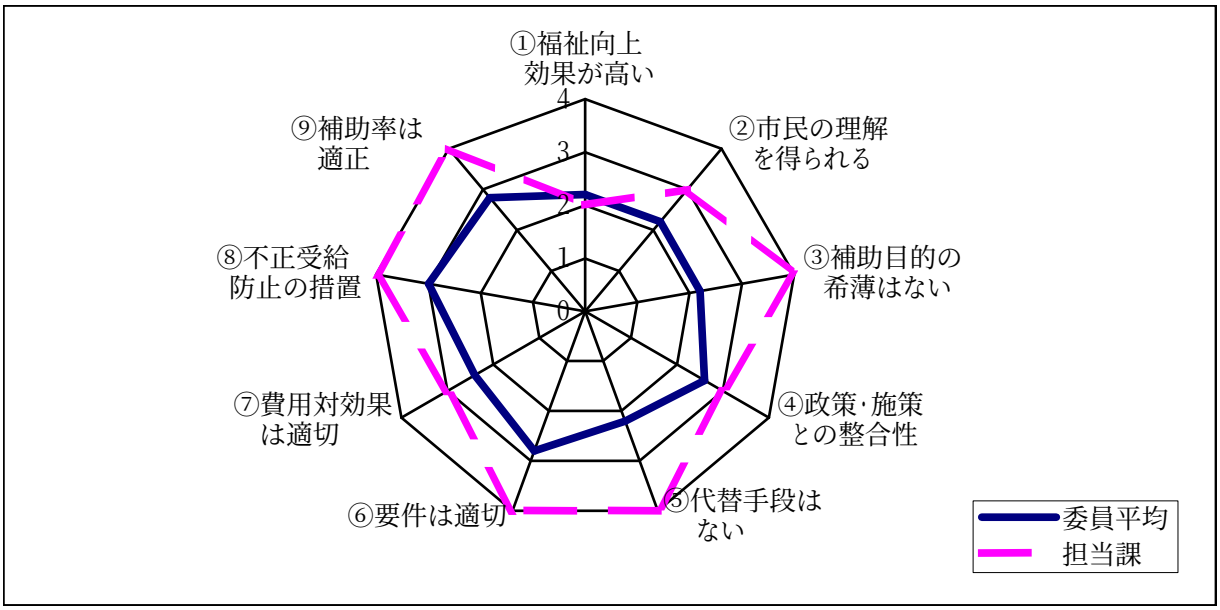
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	27	補助金名	排水設備等改造費補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		3	4	2
委員Ｂ		2	7	
委員Ｃ		3	5	1
委員Ｄ	3	5	1	
委員Ｅ		2	7	
計	3	15	24	3
①福祉向上効果が高い		＋＋＋＋	－	
②市民の理解を得られる		＋＋	－－－	
③補助目的の希薄はない		＋	－－－	－
④政策・施策との整合性	＋		－－－－	
⑤代替手段はない	＋	＋	－－－	
⑥要件は適切	＋	＋	－－－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－	－
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正			－－－－	－

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			補助の趣旨としては必要であるが、現行の制度では活用ができないと思われる。国の制度を活用するなど制度の抜本的な見直しを検討されたい。
継続	＋		
縮減			
廃止	＋＋＋＋	○	
終期			
切替			

３　その他特記事項

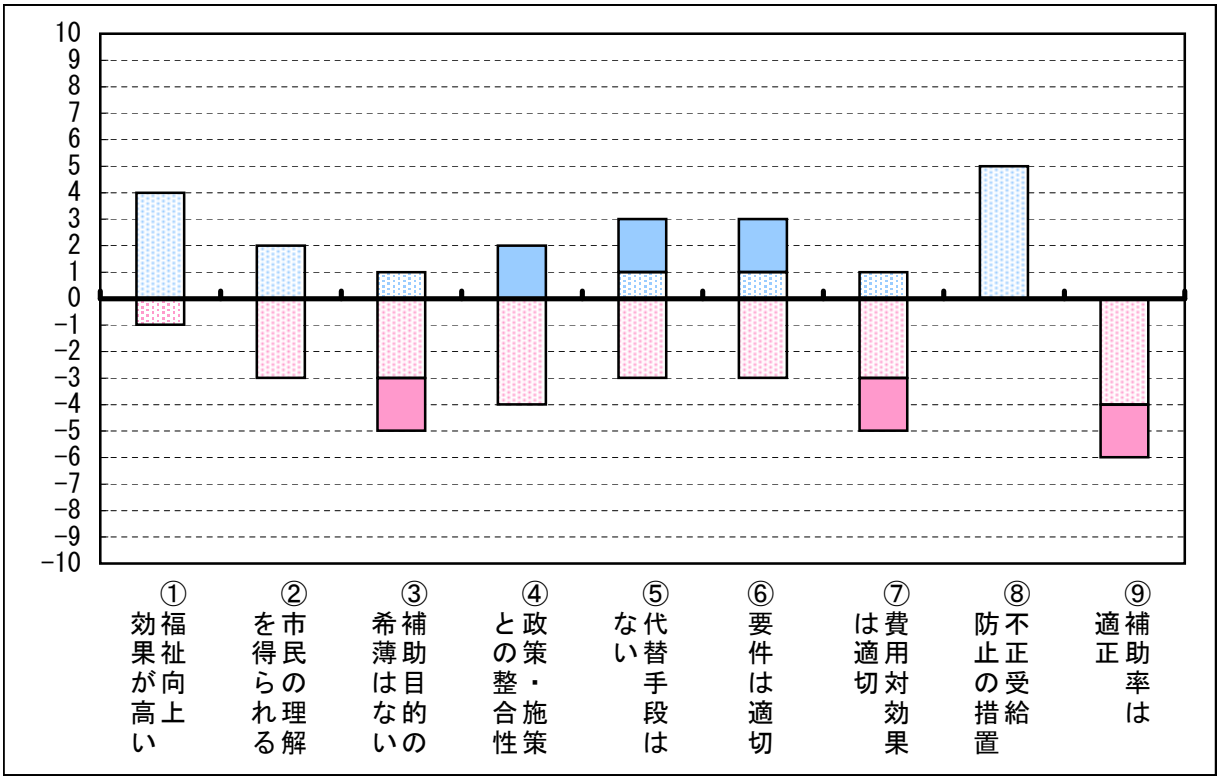
・対象者が少ないので、意見がまとめられない。
・あっても使えないような制度であれば、やめることを考えた方がいい。
・これまで活用されていない経緯、対象者が１名であるという現状から見て、制度の抜本的な見直しが必要である。
・市が全額支払った場合、市に２分の１を補助するという国の制度の活用を検討されたい。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	108点 ／ 180点	平均	21.6点 ／ 36点

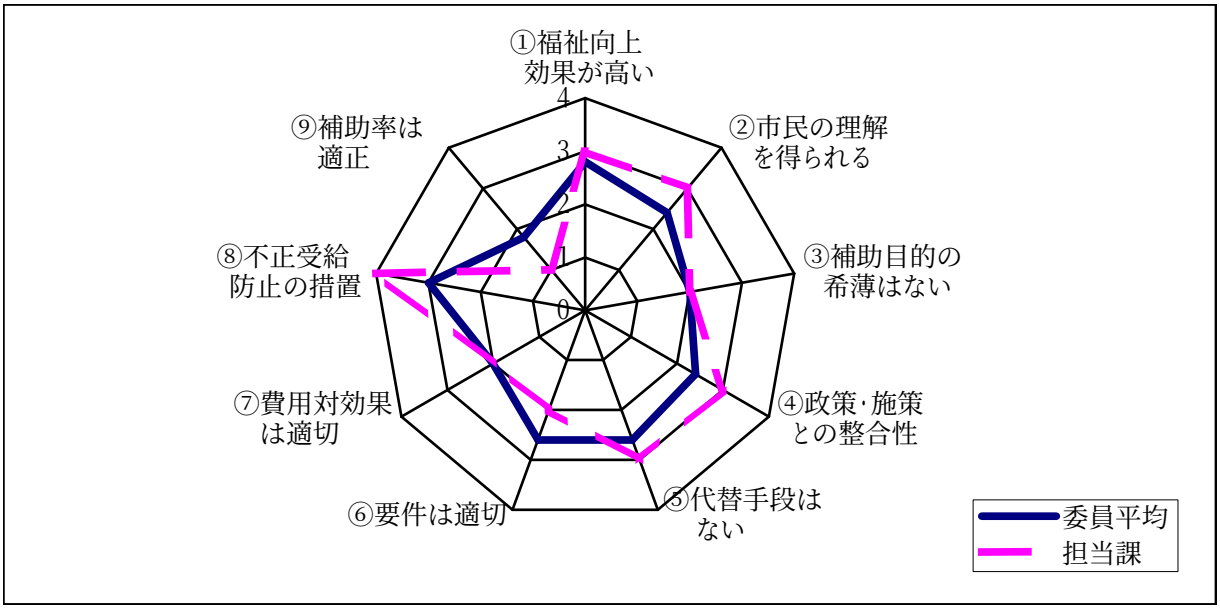
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	9	補助金名	生ごみ発酵用密閉容器購入補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		7	2	
委員Ｂ		8	1	
委員Ｃ		1	5	3
委員Ｄ			7	2
委員Ｅ		6	3	
計		22	18	5
①福祉向上効果が高い		＋＋	－－	－
②市民の理解を得られる		＋＋＋	－－	
③補助目的の希薄はない		＋＋	－	－－
④政策・施策との整合性		＋＋＋	－－	
⑤代替手段はない		＋＋	－－	－
⑥要件は適切		＋＋	－－－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－	－
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋＋	－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			ごみ減量の観点から補助金の継続の必要があると判断する場合は、生ごみ処理機購入補助金との統合等を検討する必要がある。
継続	＋＋		
縮減			
廃止	＋＋	○	
終期	＋		
切替			

３　その他特記事項

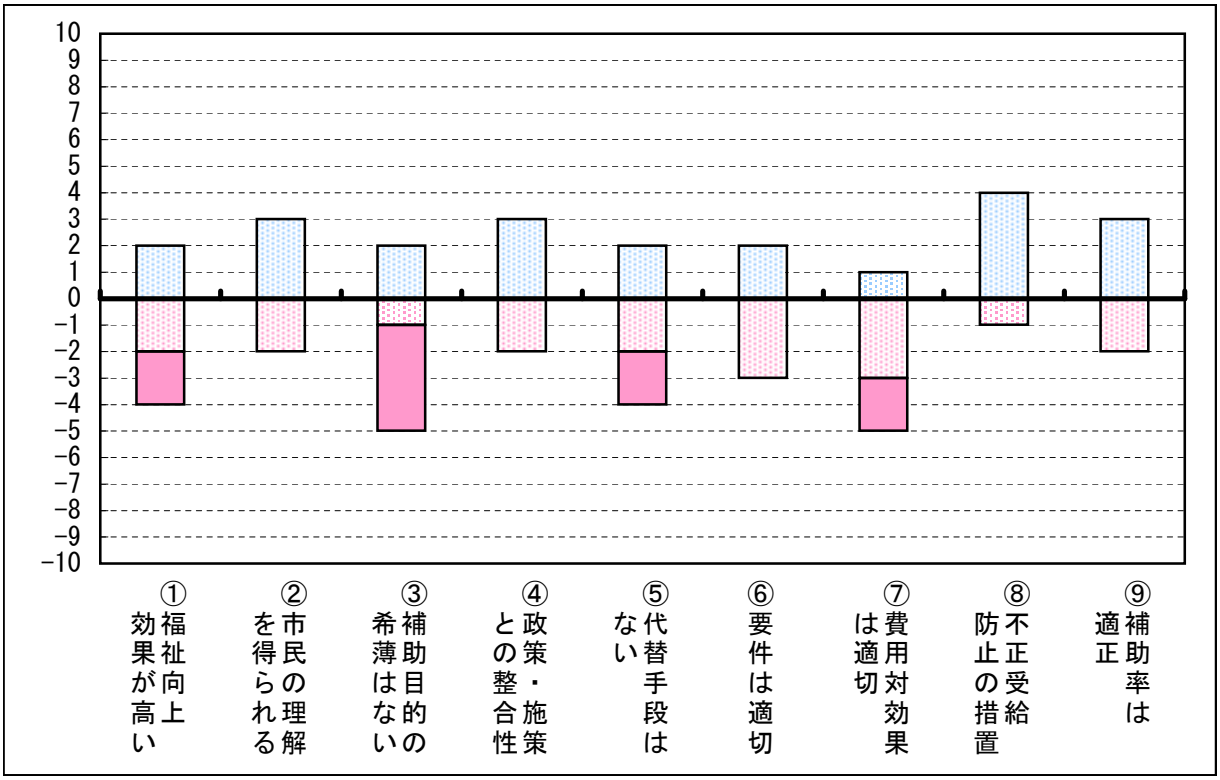
・交付実績は近年減少の傾向にあるが、もうしばらくは継続してはどうか。
・自分で使用したことがあるが、できあがった堆肥を使い切ることができない。直接肥料として使うには強すぎるし、匂いが強いのも問題である。
・この制度が今後生ごみの削減化に繋がるのかが疑問である。
・当初の補助目的は既に達成している。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	107点 ／ 180点	平均	21.4点 ／ 36点

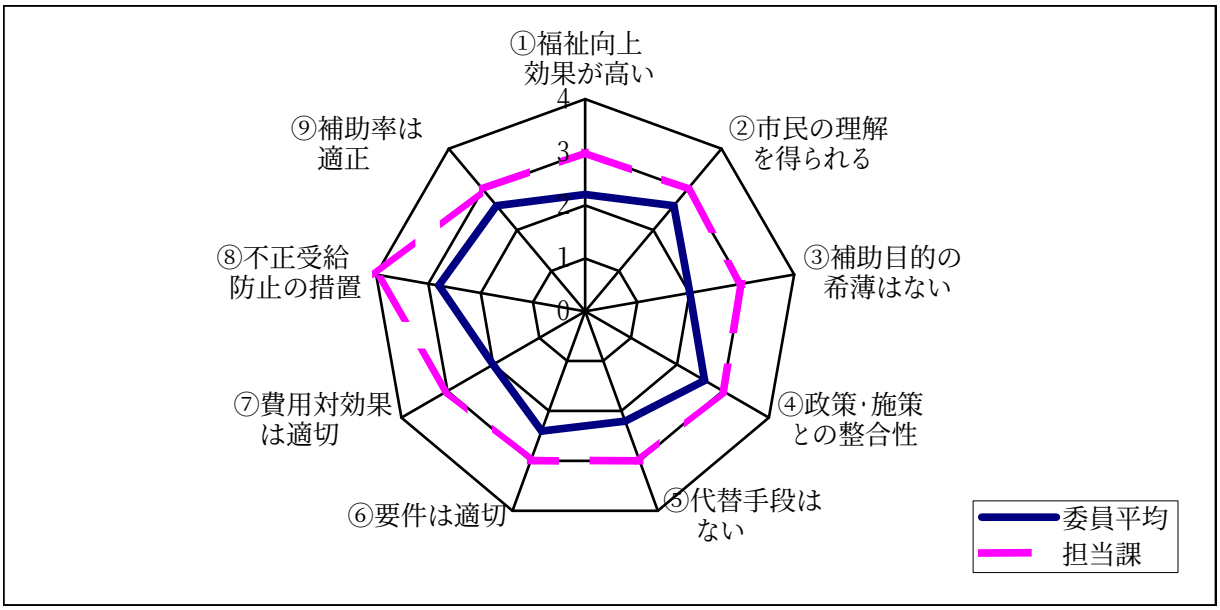
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	6	補助金名	犬・猫避妊等手術補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		6	3	
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		2	3	4
委員Ｄ		3	6	
委員Ｅ		5	4	
計		21	20	4
①福祉向上効果が高い		＋	－－－	－
②市民の理解を得られる		＋＋＋	－－	
③補助目的の希薄はない		＋＋＋	－－	
④政策・施策との整合性			－－－－	－
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切			－－－－	－
⑦費用対効果は適切		＋＋	－－	－
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋＋＋＋		

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			継続しようとする場合には、犬猫問題対策に対する市の施策を抜本的に見直し、施策を再構築する必要がある。
継続	＋＋＋		
縮減			
廃止	＋＋	○	
終期			
切替			

３　その他特記事項

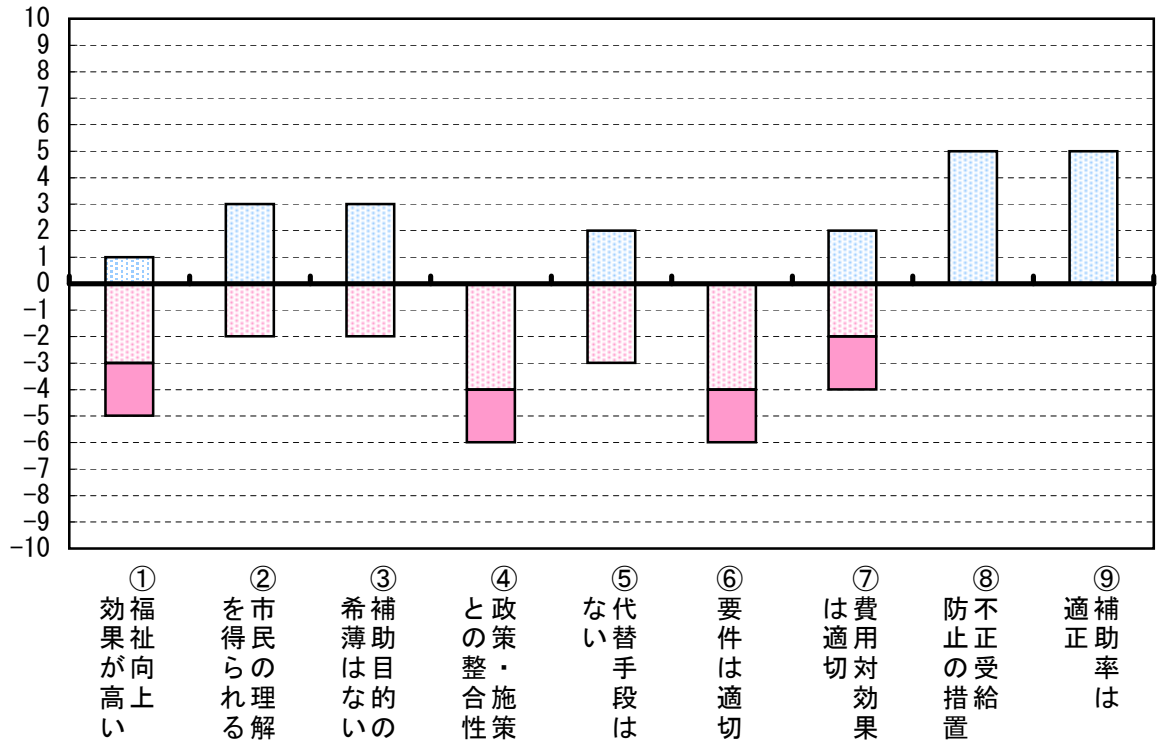
・避妊・去勢手術等は各家庭の責任において行うべきであり、市としては野良犬・猫に対してのみ補助するべきである。
・もう少し行政が施策を整理すべきではないか。補助金の問題もあるが、市民の悩みは犬の鳴き声、飼い主のマナー、猫のフン害等であり、これらの抜本的な対策が必要である。縮減というよりは廃止であり、継続するなら制度を整えた上で継続するべきである。
・市の政策、施策の目的を明確にし、補助金の効果等を全体として見直すことが必要である。
・犬猫の避妊や去勢だけで片付く問題ではない。市の政策との整合性があまりないと判断するのであれば、補助金を続けていくということに問題がある。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	107点 ／ 180点	平均	21.4点 ／ 36点

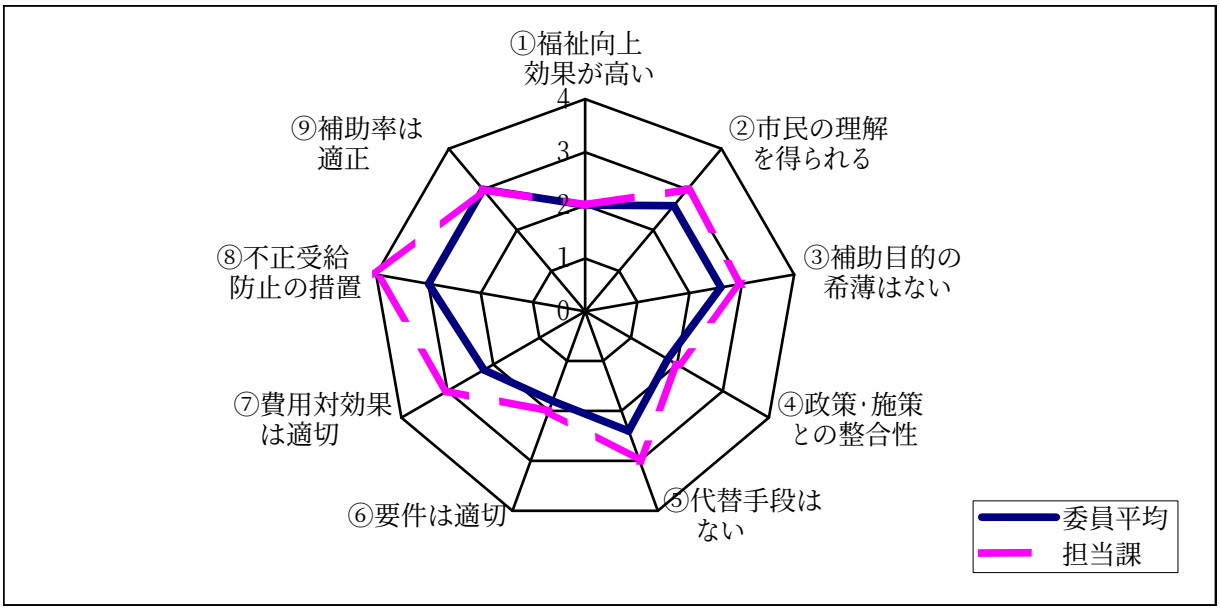
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	5	補助金名	中小企業大学校等研修費補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		4	5	
委員Ｂ		5	4	
委員Ｃ		3	5	1
委員Ｄ		4	3	2
委員Ｅ		4	5	
計		20	22	3
①福祉向上効果が高い		＋	－－－	－
②市民の理解を得られる		＋	－－－	－
③補助目的の希薄はない		＋＋	－－－	
④政策・施策との整合性		＋＋	－－－	
⑤代替手段はない		＋＋＋＋	－	
⑥要件は適切		＋＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋	－－	－

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			補助金の交付目的は理解できるが、担当課の制度運用が不適切であるため、制度の見直しが必要である。
継続	＋＋	○	
縮減	＋＋		
廃止	＋		
終期			
切替			

３　その他特記事項

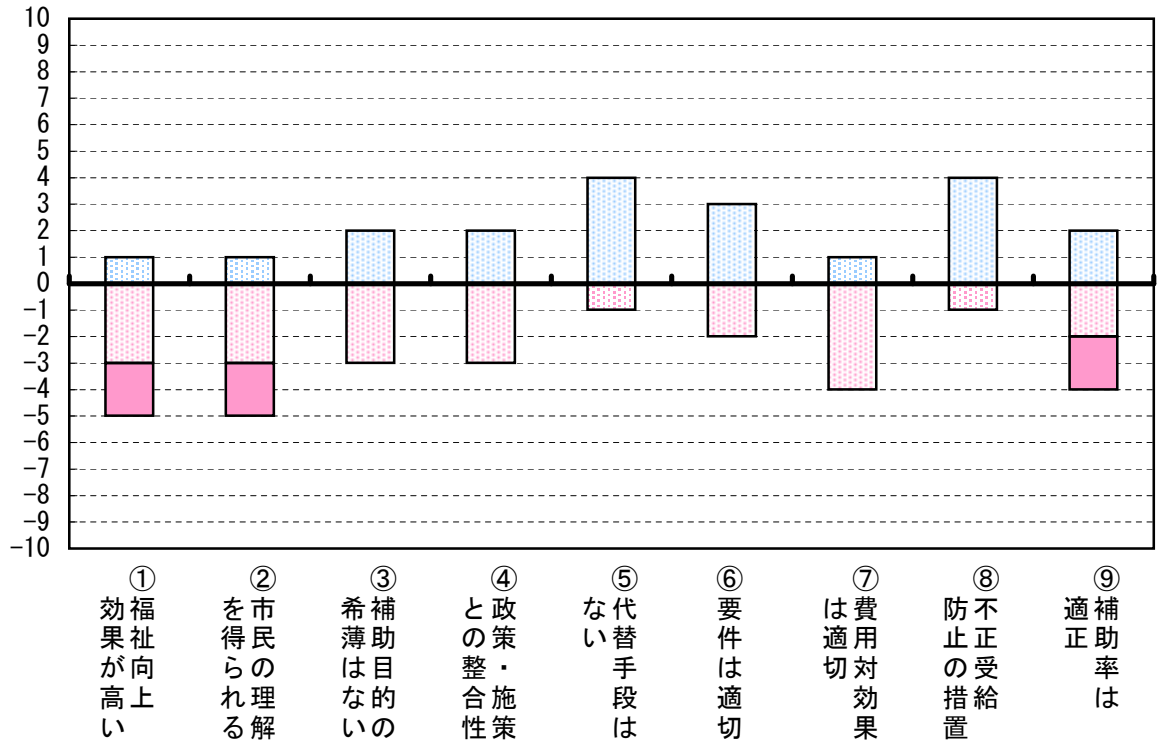
・人材育成を目的とする一般的意義はあるが、実際の運用はその目的に適合していない。一旦廃止して、制度を再構築することが望ましい。
・商工会で制度として検討されてはどうか。
・２０人以下の企業では、研修を受講させるのは大変であると思うが、受講する環境づくりをして制度運用を図ってほしい。
・補助金の趣旨、目的について広報を充実させ、人材育成の必要性を広く市民に理解してもらう工夫と努力が必要である。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	107点 ／ 180点	平均	21.4点 ／ 36点

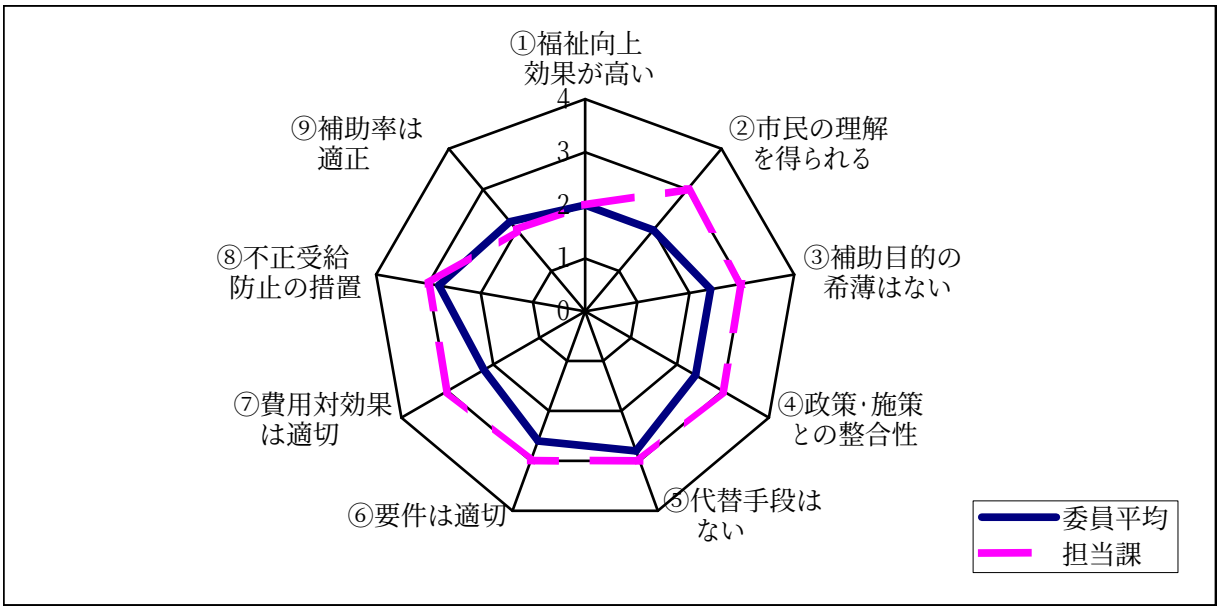
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	12	補助金名	障害者住宅整備資金借受者利子補給補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		3	6	
委員Ｂ		4	5	
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ		2	7	
委員Ｅ		5	4	
計		16	29	
①福祉向上効果が高い		＋＋	－－－	
②市民の理解を得られる		＋＋＋	－－	
③補助目的の希薄はない			－－－－－	
④政策・施策との整合性		＋	－－－－	
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切		＋＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切			－－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正			－－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			現在の対象者をもって廃止が適当である。障害者福祉の重要性は委員全員が認めるところであるが、利子補給を行う意義は、現在の低金利の下では失われている。この補助金の財源は、他の障害者福祉施策のために活用されたい。
継続	＋		
縮減			
廃止	＋＋＋	○	
終期	＋		
切替			

３　その他特記事項

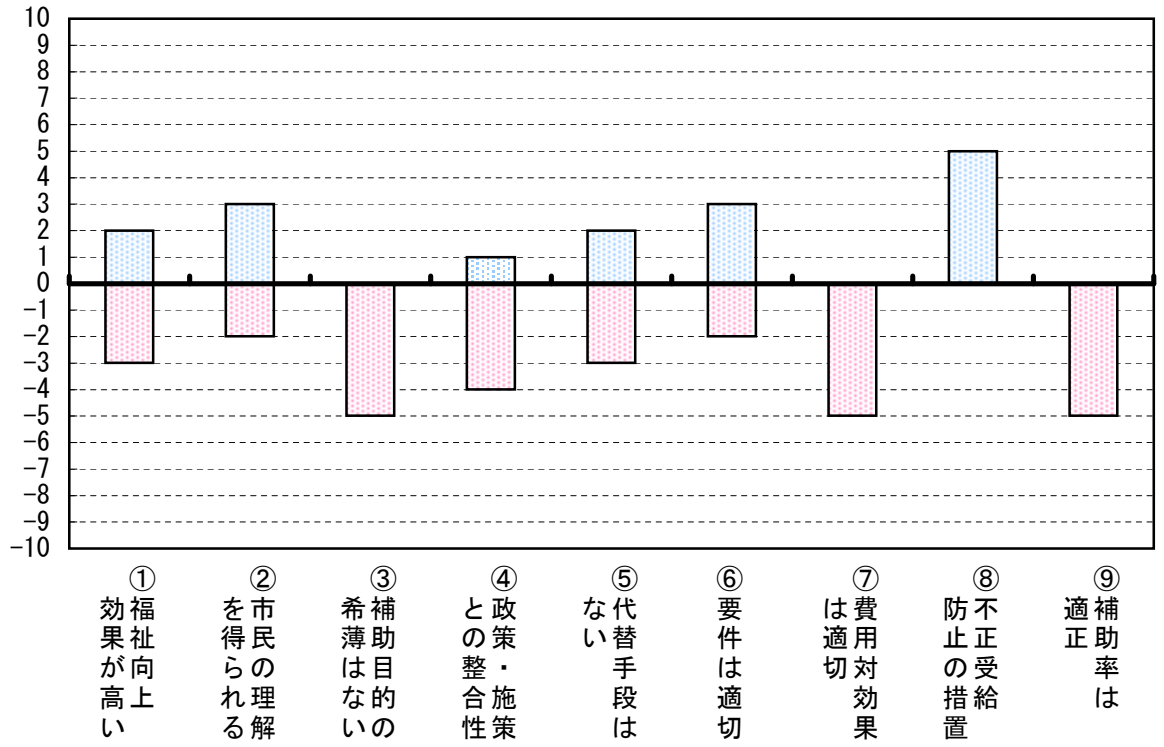
・障害者扶助のために継続をすべきでないか。
・近年の低金利の情勢では、利子補給を行う意義は薄れている。他の障害者施策に転換すべきである。
・現在の対象者の返済が終了する時点で廃止すべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	106点 ／ 180点	平均	21.2点 ／ 36点

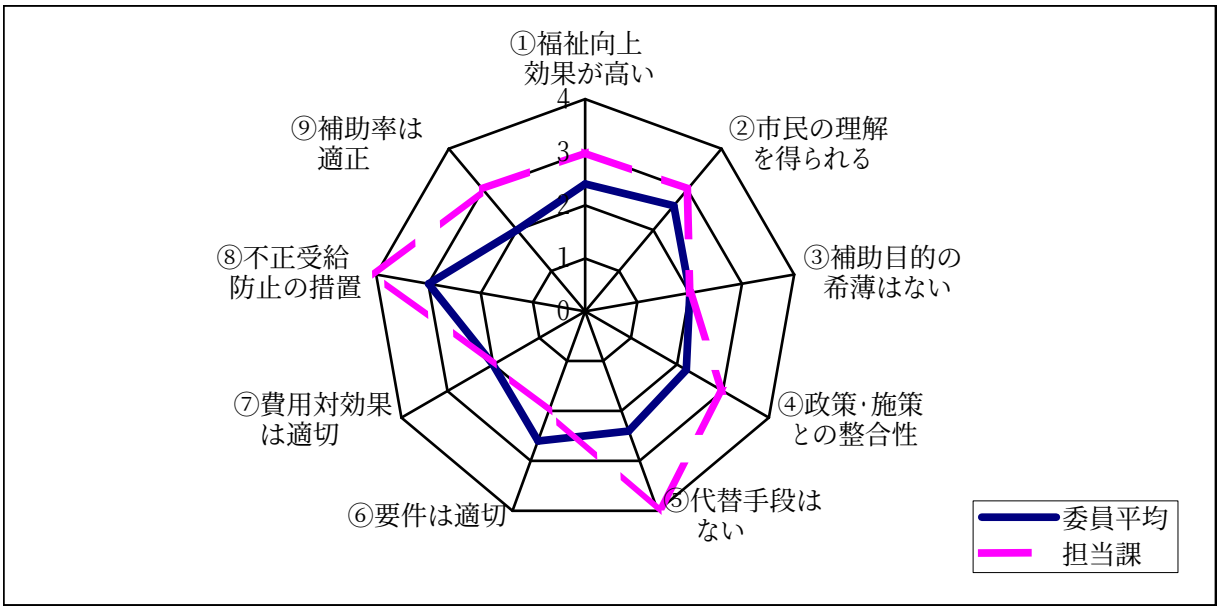
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	17	補助金名	健康診断書作成補助金（長寿課）

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		3	6	
委員Ｂ		6	3	
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ		2	6	1
委員Ｅ		3	6	
計		16	28	1
①福祉向上効果が高い		＋	－－－－	
②市民の理解を得られる		＋	－－－	－
③補助目的の希薄はない		＋	－－－－	
④政策・施策との整合性		＋	－－－－	
⑤代替手段はない		＋＋＋	－－	
⑥要件は適切		＋＋＋	－－	
⑦費用対効果は適切			－－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋	－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			高齢者福祉は重要な施策であるが、総合的な施策に切り替えるべきである。
継続	＋		
縮減			
廃止	＋＋	○	
終期	＋		
切替	＋		

３　その他特記事項

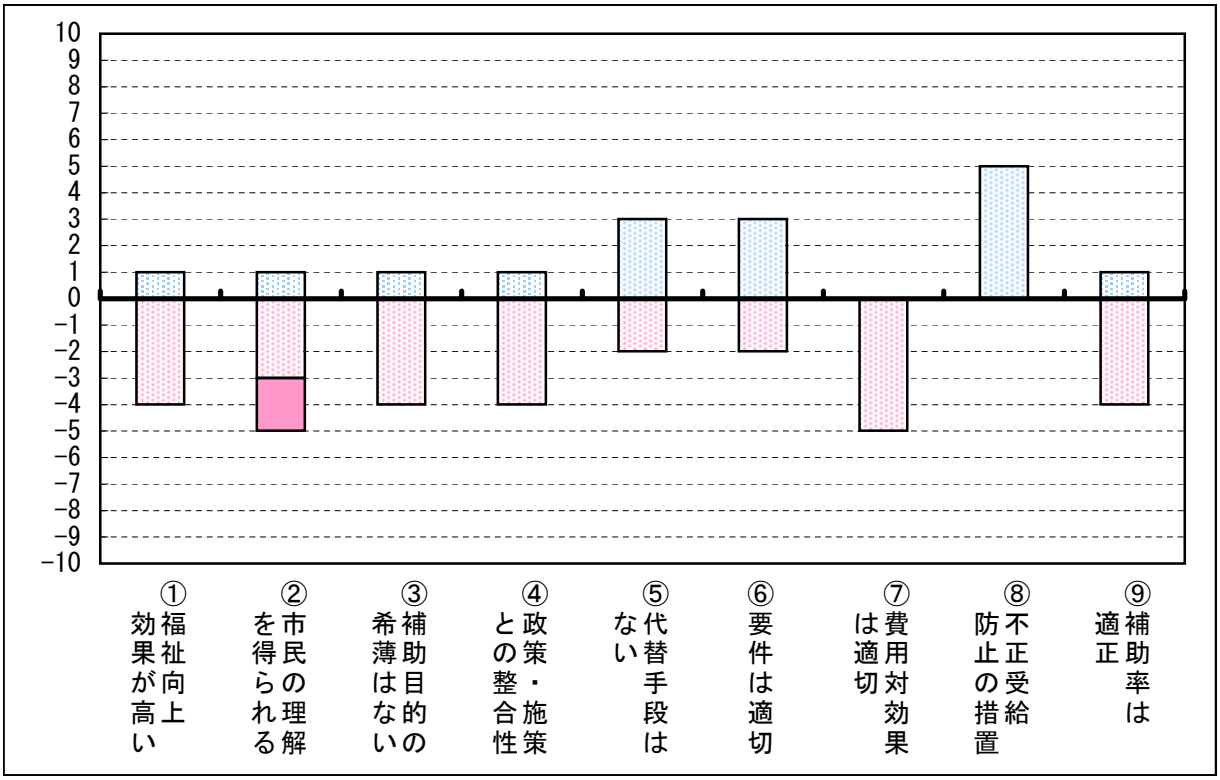
・高齢者福祉は重要な施策であるが、健康診断書の作成というような個別の施策ではなく、総合的な施策に切り替えて欲しい。
・公益性が高い事業とは思えない。
・別の制度への変更が必要ではないか。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	105点 ／ 180点	平均	21点 ／ 36点

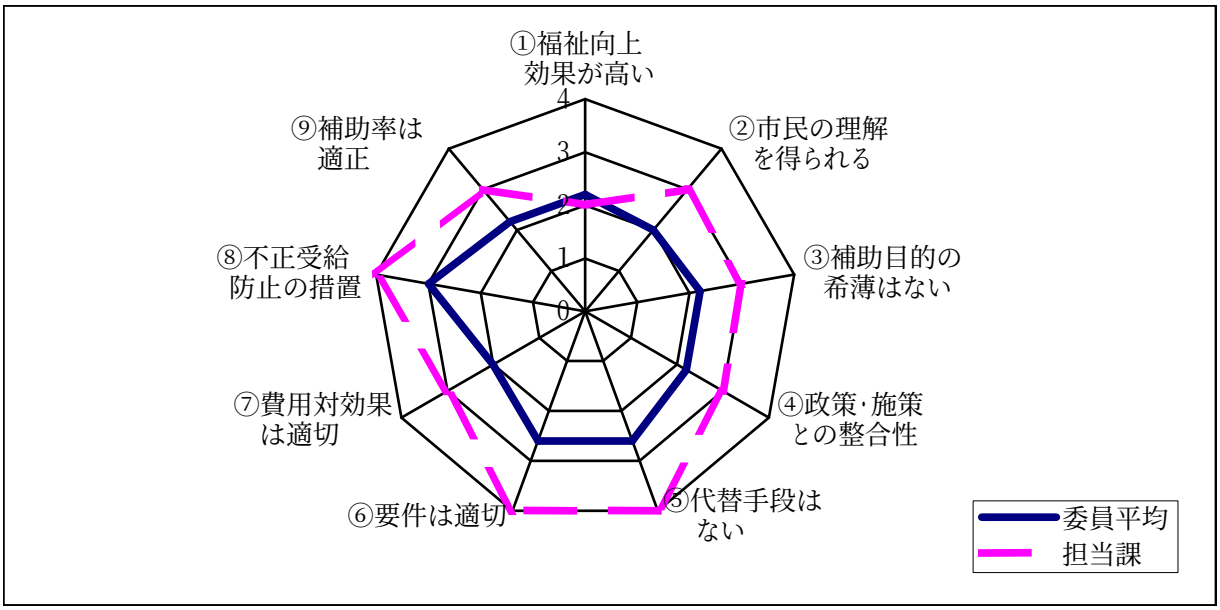
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	13	補助金名	健康診断書作成補助金（福祉課）

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		1	8	
委員Ｂ		6	3	
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ		2	6	1
委員Ｅ		4	5	
計		15	29	1
①福祉向上効果が高い		＋	－－－－	
②市民の理解を得られる		＋＋	－－	－
③補助目的の希薄はない		＋	－－－－	
④政策・施策との整合性		＋	－－－－	
⑤代替手段はない		＋＋＋	－－	
⑥要件は適切		＋＋	－－－	
⑦費用対効果は適切			－－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋	－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			障害者福祉は重要な施策であるが、総合的な施策に切り替えるべきである。
継続	＋		
縮減			
廃止	＋＋	○	
終期	＋		
切替	＋		

３　その他特記事項

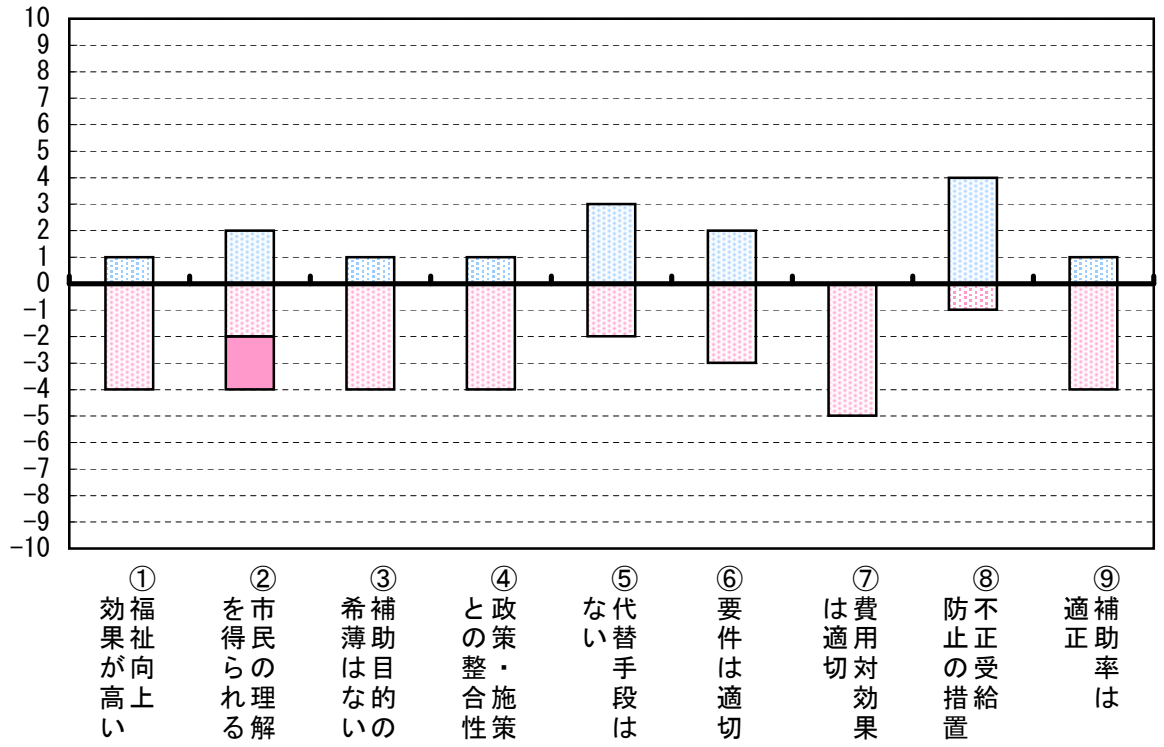
・障害者福祉施策全体を再点検し、この補助金をはじめ、障害者福祉に関する補助金の効果を検証する必要があるのではないか。
・費用対効果を考えると、廃止もやむを得ない。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	104点 ／ 180点	平均	20.8点 ／ 36点

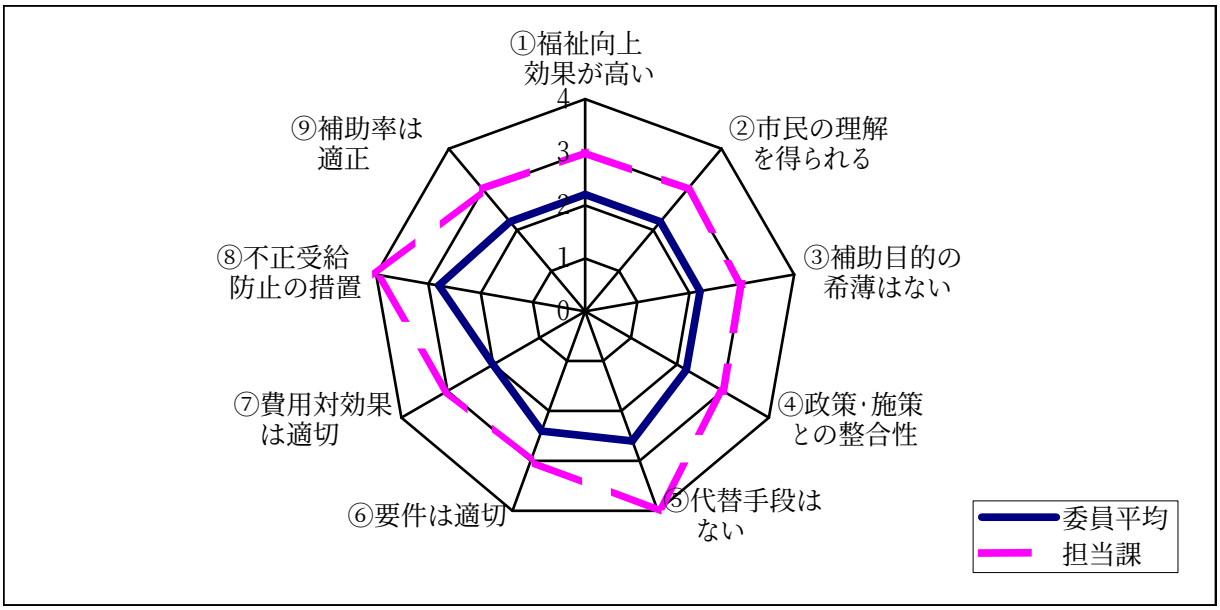
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	8	補助金名	生ごみ堆肥化容器購入補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ	1	1	7	
委員Ｂ		2	7	
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ			6	3
委員Ｅ		7	2	
計	1	12	29	3
①福祉向上効果が高い		＋	－－－－	
②市民の理解を得られる		＋	－－－－	
③補助目的の希薄はない	＋		－－－－	
④政策・施策との整合性		＋	－－－	－
⑤代替手段はない		＋	－－－	－
⑥要件は適切		＋＋	－－	－
⑦費用対効果は適切			－－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋	－	
⑨補助率は適正		＋＋	－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			ごみ減量の観点から補助金の継続の必要があると判断する場合は、生ごみ処理機購入補助金との統合等を検討する必要がある。
継続			
縮減			
廃止	＋＋＋	○	
終期	＋＋		
切替			

３　その他特記事項

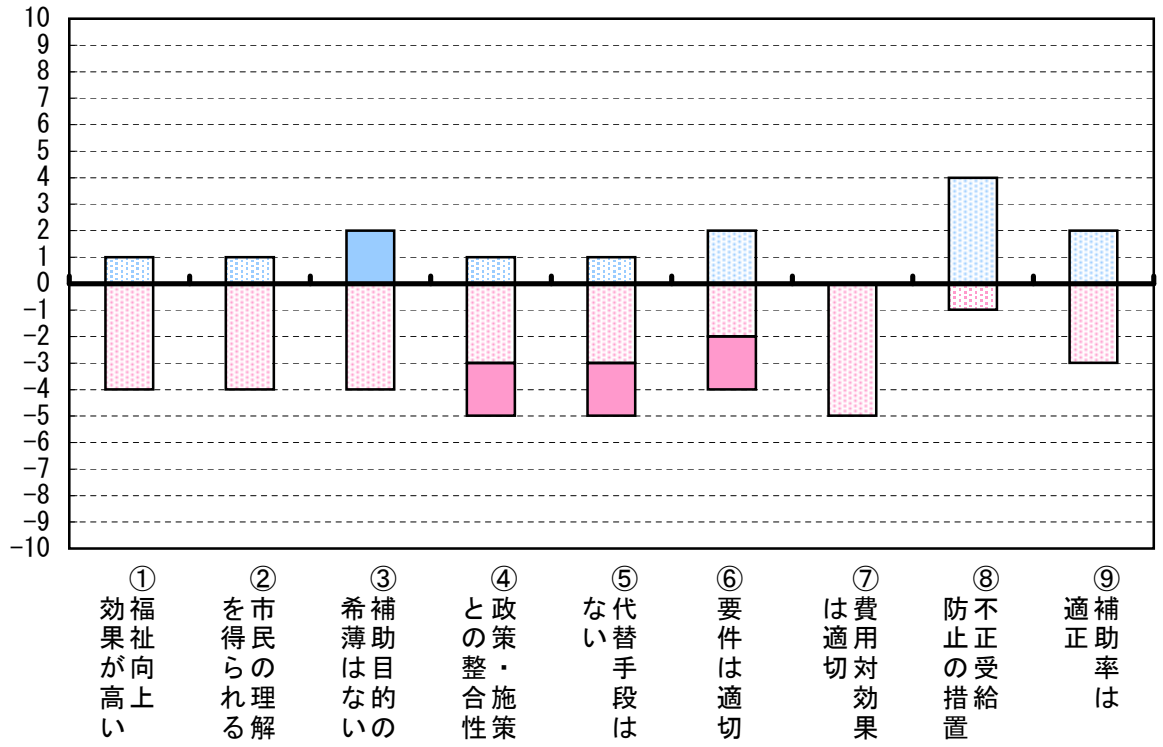
・補助件数が少ないため、補助金の効果が低いと思う。
・交付目的は、過去の実績から見ると消滅している。もっと根本的なごみ対策の施策を検討するべきである。
・補助金額、普及率から見て、補助金の役割は終了したと考えられる。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	101点 ／ 180点	平均	20.2点 ／ 36点

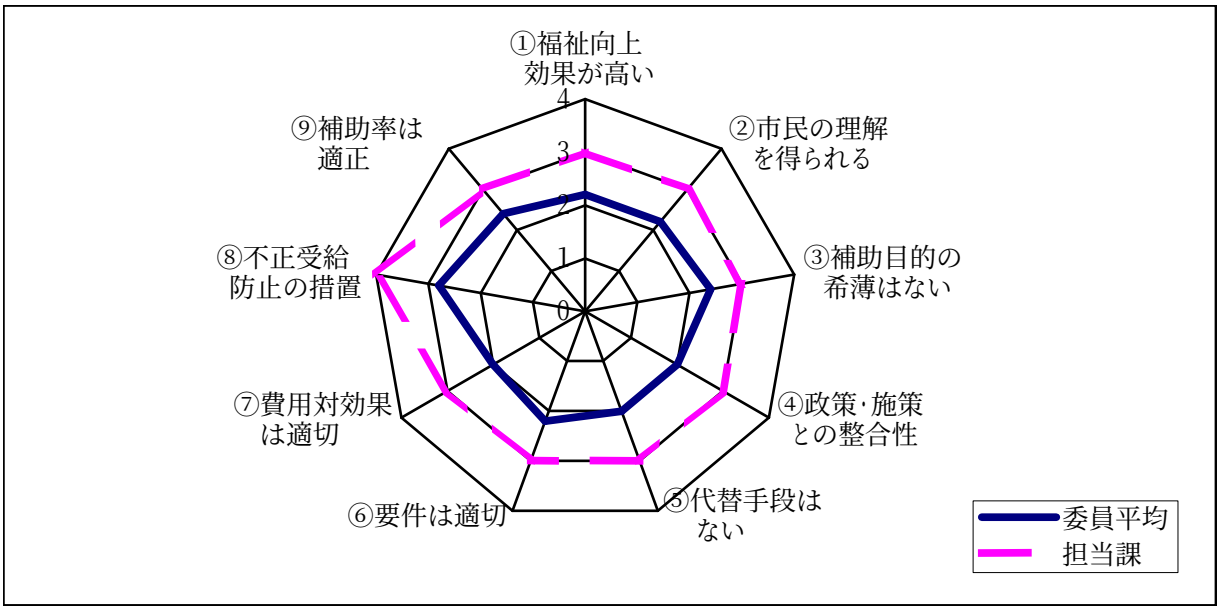
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	15	補助金名	高齢者住宅整備資金借受者利子補給補助金

1　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		1	8	
委員Ｂ		3	6	
委員Ｃ		2	5	2
委員Ｄ		3	6	
委員Ｅ		4	5	
計		13	30	2
①福祉向上効果が高い			－－－－	－
②市民の理解を得られる			－－－－－	
③補助目的の希薄はない			－－－－－	
④政策・施策との整合性		＋	－－－	－
⑤代替手段はない		＋＋	－－－	
⑥要件は適切		＋＋	－－－	
⑦費用対効果は適切		＋	－－－－	
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋＋＋		
⑨補助率は適正		＋＋	－－－	

2　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			現在の対象者をもって廃止が適当である。
継続			
縮減			
廃止	＋＋＋	○	
終期	＋＋		
切替			

3　その他特記事項

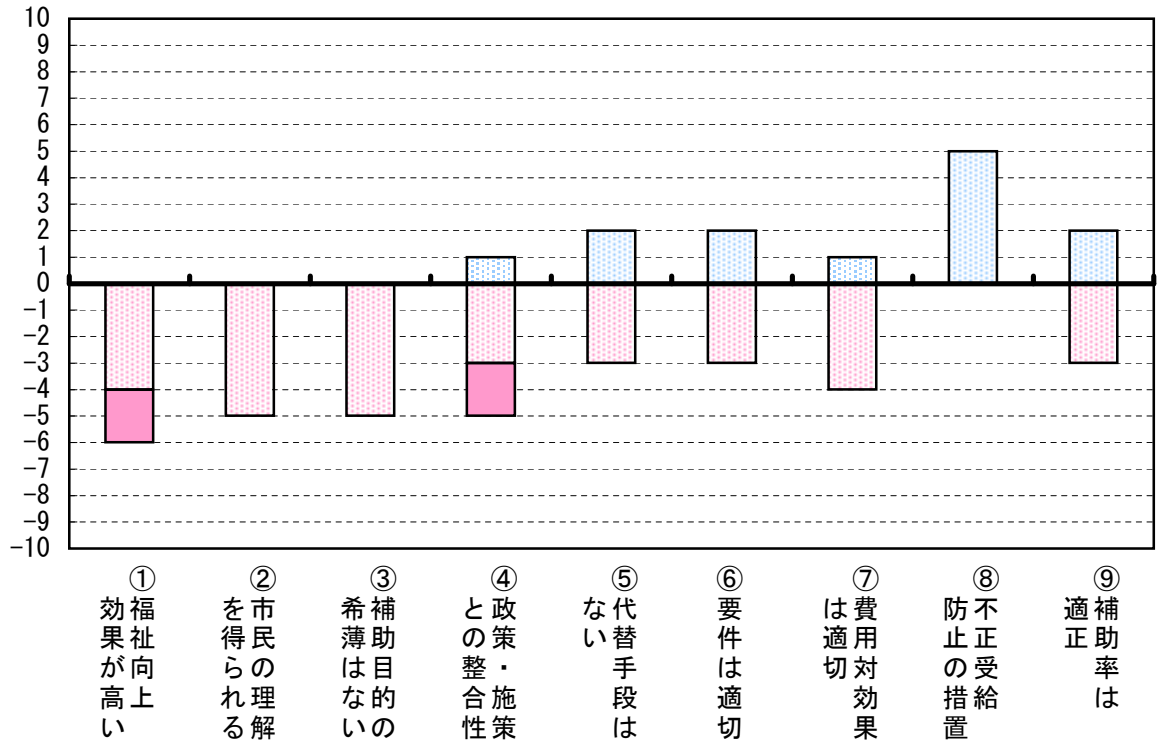
・住宅事情、金融事情等を考慮すると、利子補給の必要性は希薄している。
・金利負担を軽減するため、借り換えを勧めるべきである。
・他の高齢者福祉施策に転換すべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	101点 ／ 180点	平均	20.2点 ／ 36点

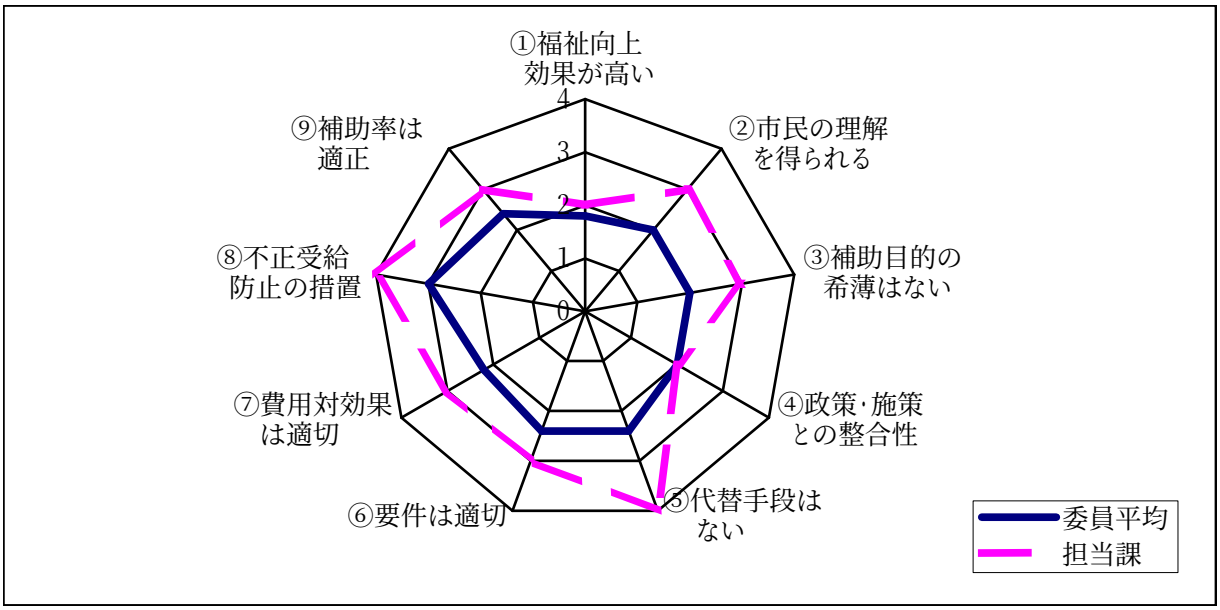
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	1	補助金名	中小企業退職金共済制度補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		1	5	3
委員Ｂ			8	1
委員Ｃ		2	7	
委員Ｄ			3	6
委員Ｅ			9	
計		3	32	10
①福祉向上効果が高い			－－－－	－
②市民の理解を得られる			－－－－	－
③補助目的の希薄はない			－－－－－	
④政策・施策との整合性			－－－－	－
⑤代替手段はない		＋	－－	－－
⑥要件は適切			－－－	－－
⑦費用対効果は適切			－－	－－－
⑧不正受給防止の措置		＋＋	－－－	
⑨補助率は適正			－－－－－	

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			加入者が極端に限られている。抜本的な見直しが必要である。
継続			
縮減			
廃止	＋＋＋	○	
終期	＋＋		
切替			

３　その他特記事項

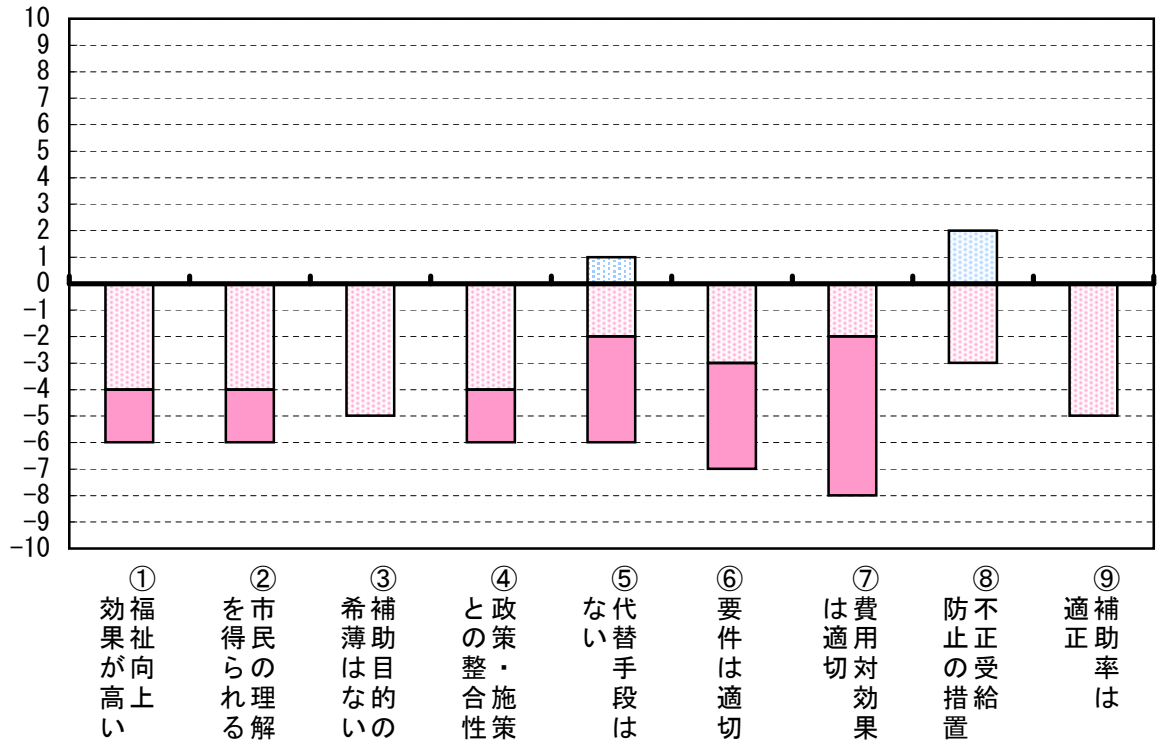
・他に代替手段がないとか、市がやらなければならないものでなければ、説明責任が果たせない。
・商工会が実施している特退共も加入者数が減少しているので、期限をもって打ち切ってはどうか。
・猶予期間として３年据え置いて、平成２３年度に廃止してはどうか。
・中退共と特退共の制度を一本化するなど、抜本的な見直しが必要である。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	83点 ／ 180点	平均	16.6点 ／ 36点

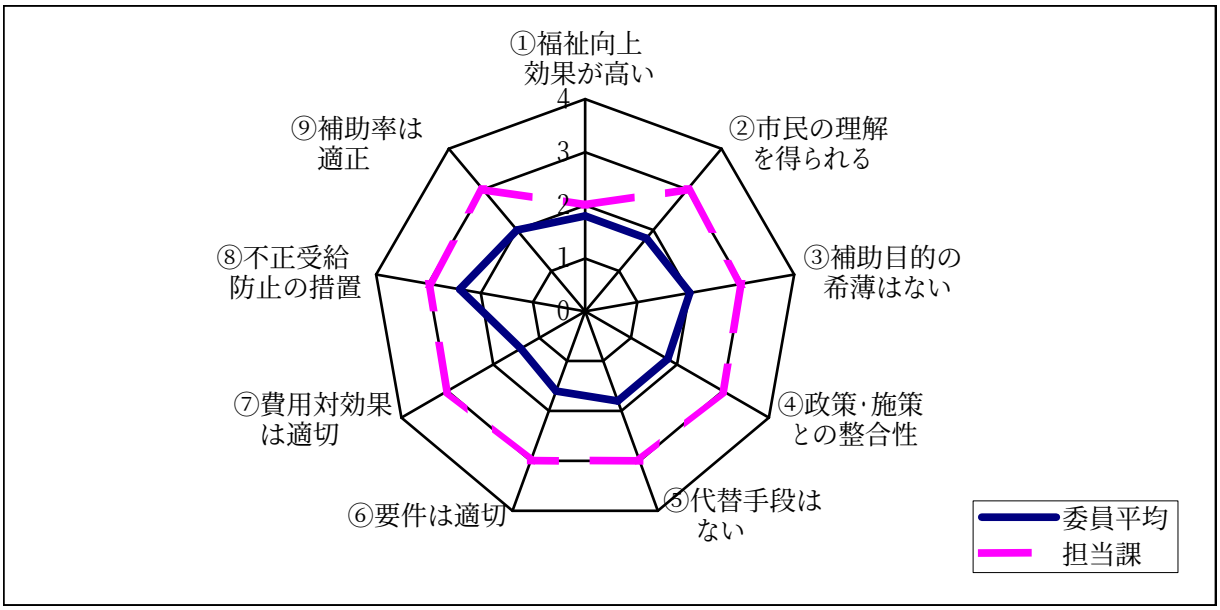
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



整理番号	3	補助金名	離職者支援資金借受者利子補給補助金

１　個別審査の結果

	あてはまる	どちらかというとあてはまる	どちらかというとあてはまらない	あてはまらない
委員Ａ		1		8
委員Ｂ			7	2
委員Ｃ		1	4	4
委員Ｄ				9
委員Ｅ		2	7	
計		4	18	23
①福祉向上効果が高い			－－	－－－
②市民の理解を得られる			－－	－－－
③補助目的の希薄はない			－－	－－－
④政策・施策との整合性			－	－－－－
⑤代替手段はない			－－	－－－
⑥要件は適切			－－－	－－
⑦費用対効果は適切			－－－	－－
⑧不正受給防止の措置		＋＋＋	－	－
⑨補助率は適正		＋	－－	－－

２　方向性

	個人審査	委員会結論	方向性に関する附帯意見
拡大			対象者がいないため、廃止が適当である。
継続			
縮減			
廃止	＋＋＋＋＋	○	
終期			
切替			

３　その他特記事項

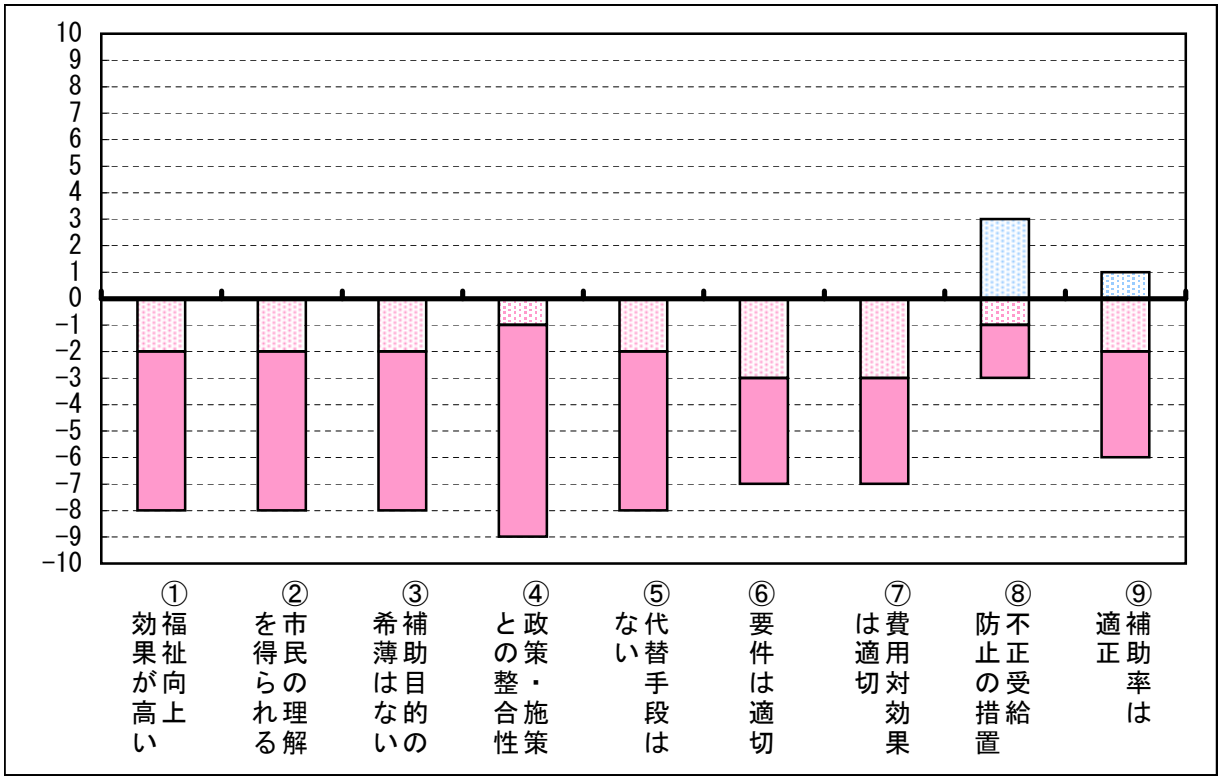
・制度運用がされていないため、補助の打ち切りをしてはどうか。
・一般的には知られていない制度であるため、他の補助金へ移行するなど、制度の再検討をするべきである。

資料１　合計点による検討資料

調整後	合計	71点 ／ 180点	平均	14.2点 ／ 36点

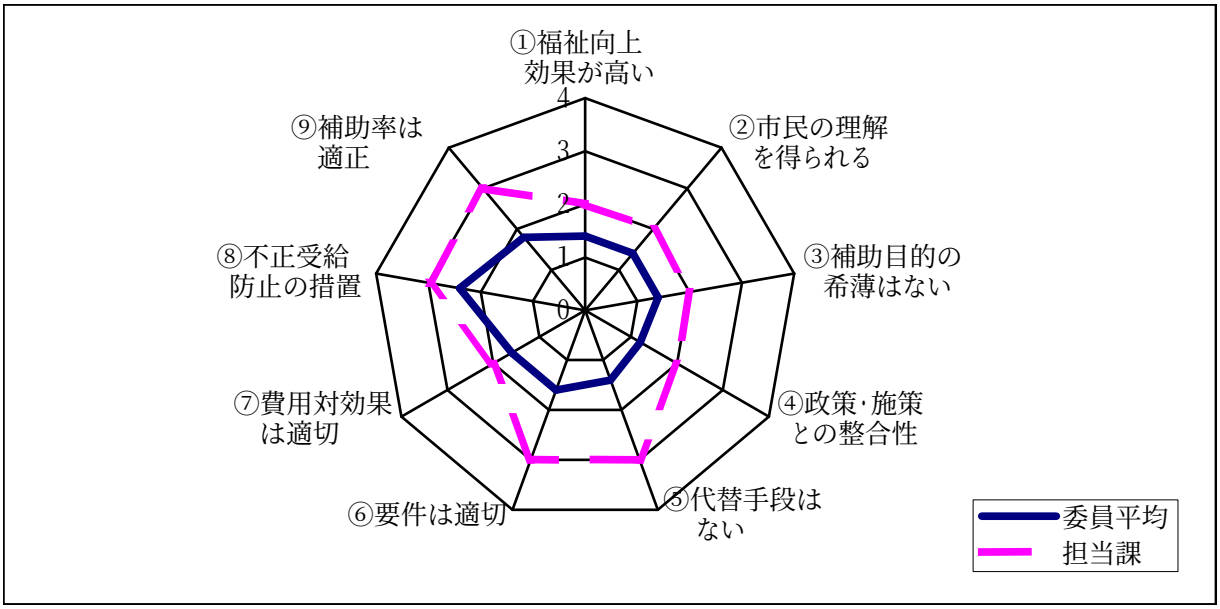
調整率	あてはまる	4	どちらかというとあてはまらない	2
	どちらかというとあてはまる	3	あてはまらない	1

資料２　長所・短所の分散による検討資料



調整率	あてはまる	2	どちらかというとあてはまらない	−1
	どちらかというとあてはまる	1	あてはまらない	−2

資料３　担当課審査結果と委員審査結果（平均）の比較による検討資料



個人補助金チェックシート（担当課審査表）

担当課	

整理番号		補助金名	
補助金の類型		特定の政策目的を達成するために金銭的な援助を行うもの〔特定目的型〕	
		格差の是正、経済負担の軽減のために金銭的な援助を行うもの〔格差是正型〕	
		その他	

≪行政評価における対象と意図≫　　▽事務事業評価表（Ａ表）から転記

事務事業コード		事務事業名	
対　　象 （誰、何に対して事業を行うのか）		意　　図 （対象をどのような状態にしたいのか）	

≪補助金の概要≫　　▽補助金の内容を簡潔に記入（要綱等の転記ではなく平易な表現とする）

交付対象者（誰が）	
交付の要件（どのような条件の場合に）	
交付率・額（どのような基準で○円を交付することにより）	
交付目的（何を達成しようとしているのか）	

≪補助開始年度・見直しの状況≫　　▽見直しの概要は簡潔に記入

補助開始年度		平成　　年度
		不明（経過年数　　年以上）
最近の見直しの状況	時期	平成　　年度
	見直しの概要	

≪補助金の交付実績≫　　▽平成10～19年度は実績。平成20年度の「人数・件数」は予算計上人数

	平成１０年度（１０年前）	平成１５年度（５年前）	平成１８年度（２年前）	平成１９年度（１年前）	平成２０年度
予算額(円)	円	円	円	円	円
決算額(円)	円	円	円	円	
人数・件数	人	人	人	人	人

≪所得制限の状況・不正受給防止の措置の状況≫　　▽内容を簡潔に記入

所得制限の有無及び内容		無		有　（下欄に所得制限の内容を簡潔に記載してください。）
不正受給防止の措置の有無及び内容		無		有　（下欄に措置の内容を簡潔に記載してください。）
納税状況の確認の有無		無		有

≪隣接市町の状況≫　　▽各市町ホームページ、担当課への聞取りなどにより調査

	類似制度の有無		制度の概要（本市制度との相違点を中心に簡潔に）
名古屋市		有	
		無	
瀬 戸 市		有	
		無	
長久手町		有	
		無	

≪この補助金の課題・問題点・改善点など≫　　▽担当課の考えを簡潔に記入

≪担当課による審査≫　　▽４段階で評価し該当欄に〇を記入

項目			評価			
			4	3	2	1
公益性	1	市民の福祉向上と利益の増進に効果がある。（公益性が高い。）				
	2	補助金の必要性は、市民の理解を得られるものである。（社会通念上、容認される程度のものである。）				
	3	当初の補助目的は希薄化していない。（時代・社会情勢に合っている。）				
妥当性	4	[特定目的型⇒] 市の政策・施策との整合性がある。[格差是正型⇒] 市が財政支援をしなければならない事業であ				
	5	補助金以外の代替手段はない。（現金の交付以外には効率的な方法はない。）				
	6	補助対象の要件は適切である。（補助が必要な者のみを適切に対象としている。所得制限等が適切な水準に設定されている。）				
効　果	7	費用対効果は適切である。（補助目的の達成のために効果的な補助金である。）				
透明性	8	不正受給防止の措置が適切に講じられている。				
公平性	9	補助率（額）は適正な水準である。（補助率（額）に過不足はない。）				
		各評価の個数⇒				

（評価基準）４：あてはまる　　３：どちらかというとあてはまる
２：どちらかというとあてはまらない　　１：あてはまらない

個人補助金チェックシート

委員名	

整理番号		補助金名	

項　　目			評　価			
公益性	1	市民の福祉向上と利益の増進に効果がある。 （公益性が高い。）	4	3	2	1
	2	補助金の必要性は、市民の理解を得られるものである。 （社会通念上、容認される程度のものである。）	4	3	2	1
	3	当初の補助目的は希薄化していない。 （時代・社会情勢に合っている。）	4	3	2	1
妥当性	4	[特定目的型⇒] 市の政策・施策との整合性がある。 [格差是正型⇒] 市が財政支援をしなければならない事業である。	4	3	2	1
	5	補助金以外の代替手段はない。 （現金の交付以外には効率的な方法はない。）	4	3	2	1
	6	補助対象の要件は適切である。（補助が必要な者のみを適切に対象としている。所得制限等が適切な水準に設定されている。）	4	3	2	1
効　果	7	費用対効果は適切である。 （補助目的の達成のために効果的な補助金である。）	4	3	2	1
透明性	8	不正受給防止の措置が適切に講じられている。	4	3	2	1
公平性	9	補助率（額）は適正な水準である。 （補助率（額）に過不足はない。）	4	3	2	1
		各評価の個数⇒				

（評価基準）４：あてはまる　　３：どちらかというとあてはまる
２：どちらかというとあてはまらない　　１：あてはまらない

方向性	拡大　・　継続　・　縮減　・　廃止　・　終期　・　切替

（評価基準）拡大：対象等を拡大　　継続：現行水準を維持
縮減：金額・対象等を縮減　　廃止：補助打ち切り
終期：今後〇年に限り維持　　切替：別予算等に切替

特記事項

尾張旭市補助金等審査委員会条例

（趣旨）

第１条　この条例は、地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第１３８条の４第３項の規定に基づき、尾張旭市補助金等審査委員会（以下「委員会」という。）の設置及び運営に関する事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　市長の諮問に応じ、市が交付する補助金等の適正化に関し必要な事項について審査するため、委員会を置く。

（定義）

第３条　この条例において「補助金等」とは、市が市以外のものに対して交付する補助金、負担金、交付金その他これらに類するものをいう。

（組織）

第４条　委員会は、委員５人以内をもって組織する。

（委員）

第５条　委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

（１）学識経験を有する者

（２）優れた識見を有する者

（３）前２号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

２　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は、再任されることができる。

（委員長）

第６条　委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

３　委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめその指定する委員がその職務を代理する。

（会議）

第７条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

４　委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は、総務部財政課において処理する。

（委任）

第９条　この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

この条例は、平成１８年４月１日から施行する。

委員会開催状況

回　数	と　　き	内　　容
	平成 18 年 7 月 1 日	委員会設置、委員委嘱
第 1 回 ｜ 第 17 回	平成 18 年 7 月 28 日 ｜ 平成 19 年 11 月 21 日	諮問 委員長及び職務代理者の選出 委員会の進め方についての検討 団体補助金審査 「団体補助金の見直しに関する中間報告」の提出
第 18 回	平成 20 年 3 月 21 日	団体補助金の見直しに関する中間報告以降の市の取組状況についての説明 今後の委員会の進め方についての検討
第 19 回	平成 20 年 4 月 17 日	今後の委員会の進め方についての検討
第 20 回	平成 20 年 5 月 21 日	個人補助金の審査方法等についての検討
	平成 20 年 7 月 1 日	委員委嘱（再任）
第 21 回	平成 20 年 7 月 4 日	個人補助金審査① ・犬・猫避妊等手術補助金 ・合併処理浄化槽設置費補助金 ・生ごみ堆肥化容器購入補助金 ・生ごみ発酵用密閉容器購入補助金 ・生ごみ処理機購入補助金
第 22 回	平成 20 年 8 月 20 日	個人補助金審査② ・民間木造住宅耐震改修費補助金 ・保存樹等保全助成金 ・生垣設置奨励助成金 ・排水設備等改造費補助金 ・浄化槽雨水貯留施設転用補助金
第 23 回	平成 20 年 8 月 22 日	個人補助金審査③ ・中小企業退職金共済制度補助金 ・離職者支援資金借受者利子補給補助金 ・商工業振興資金等信用保証料助成金 ・中小企業大学校等研修費補助金 ・勤労者尾張あさひ苑利用助成金 ・尾張あさひ苑利用者助成金

委員会開催状況

回　数	と　　き	内　　容
第 24 回	平成 20 年 9 月 16 日	個人補助金審査④ ・私立幼稚園就園奨励費補助金 ・私立高校等授業料補助金 ・自転車通学安全補助金 ・県外妊婦・乳児健診助成金 ・不妊治療費等補助金
第 25 回	平成 20 年 9 月 30 日	個人補助金審査⑤ ・障害者住宅整備資金借受者利子補給補助金 ・高齢者住宅整備資金借受者利子補給補助金 ・健康診断書作成補助金（福祉課） ・健康診断書作成補助金（長寿課） ・障害者（児）タクシー基本料金助成金 ・高齢者タクシー基本料金助成金
第 26 回	平成 20 年 10 月 7 日	個人補助金審査⑥ ・緊急連絡用シルバーホン使用料補助金 ・介護支援事業費助成金 ・家族介護慰労事業補助金 ・成年後見人等報酬費用助成金
第 27 回	平成 20 年 10 月 28 日	これまでの審査結果と修正等の有無の確認 今後のスケジュールについての検討
第 28 回	平成 20 年 11 月 4 日	これまでの審査結果と修正等の有無の確認 個人補助金の見直しに関する中間報告についての検討
第 29 回	平成 20 年 11 月 19 日	中間報告の最終確認 「個人補助金の見直しに関する中間報告」の提出

尾張旭市補助金等審査委員会　委員名簿

（敬称略）

区　　分	氏　　名	役　　職　　等
学識経験者	いとう　たつお 伊藤　達雄	名古屋産業大学名誉学長・特任教授
有　識　者	かとう　よしゆき 加藤　義之	加藤義之法律事務所所長・弁護士
	まえだ　あきら 前田　晃希良	日本パッケージ株式会社取締役相談役
市　　民	かどわき　れいこ 門脇　玲衣子	公募による市民委員
	さたけ　たもつ 佐竹　保	公募による市民委員

任期：平成１８年7月１日から平成２２年6月３０日まで（再任）